

わが子のあゆみ



外遊びは楽しい!

柳津小学校では2時間目と3時間目の間の業間休みを「元気タイム」と名付けて、全校のみんなで運動場へ出て遊んでいます。人気の遊びはドッジボールと鬼ごっこ。青空のもと学級の間みんなと身体を動かしながら楽しく遊べば、たくさんの笑顔がうまれてきます。

今日も運動場では、一人ひとりの笑顔がいっぱい輝いています!

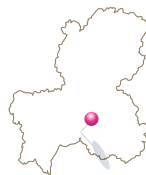
2023.7
No.476
初夏号
第75巻1号



「こみかちちゅうりつこみかちしょうがっこう」

富加町立富加小学校

住所 〒501-3305
岐阜県加茂郡富加町滝田1-381番地1
TEL 0574-54-3303
児童数 347名



〔地域の自然や風土〕
富加小学校は、濃尾平野の最北端、中濃の中央部に位置する、面積の約半分を山林が占める、自然豊かな富加町にあります。富加町は、現存する日本最古の戸籍「半布里戸籍」のふるさとであり、古代には多くの古墳が存在しました。現在でも重要文化財や城跡等が複数存在する、歴史の町でもあります。



校舎



3年生社会見学(生駒牧場)



6年生社会見学
(井高1号古墳)



レインボーリング(遊び)



地域学校協働活動(図工の制作補助)



レインボーリング(掃除)



地域学校協働活動
(理科の実験補助)



学校の教育目標

美しい心をもち
自ら考え
たくましくやりぬく子

はじめに

本校は、誰もが「明日も学校に行きたい。」と思える学校をめざしています。このためには、毎日の学習が分かること、よりよい人間関係が築けること、そして「自分は大切にされている。」と実感できることが不可欠です。これからご紹介するのは、そんな取組の一部です。これらが実現できれば、自己有用感や自己肯定感を育むことができ、学校に行くのが楽しみに思える児童を育てることができると考え、毎日実践しています。

学校のたからもの①

地域の財産を活用した「ふるさと教育」

総合的な学習の時間や社会科を中心に、地域の資源を活用した「ふるさと教育」を実践しています。町内には、国の重要文化財があるお寺、江戸時代から続く造り酒屋、刀鍛冶、乳牛や花、果物の生産者等があります。これらの中には、児童の家族が運営しているものもあり、快く学習に協力いただいています。また、町内には、古墳や城跡が複数存在し、中には気軽に見学できるものもあります。さらには、教育委員会事務局が、富加町ゆかり

学校のたからもの②

富加の子どもを地域総がかりで育てる「地域学校協働活動」

令和4年度より、本校はコミュニティスクール(以下CS)となり、それに伴って地域学校協働活動も本格的に始まりました。本部を教育委員会事務局におき、CSサポーターを募集したところ、延べ66名の応募があり、「安心・安全部」と「学び部」に分かれて活動していただいています。

「安心・安全部」の皆様には、児童の登下校を見守っていただいています。「学び部」の皆様には、家庭科や図画工作科における制作補助、理科の実験補助、算数科における練習問題の採点等にご協力いただいています。CSサポーターの方々は、帰られるときに「元気がももれた。」「楽しかった。」と言われますし、

子ども達も「また来てね。」とうれしそうです。「ありがとう」でつながる活動が、学校と地域の活性化につながっています。

学校のたからもの③

楽しいことをみんなで考え、みんなで実行する「児童会活動」

児童が自ら創造した活動で展開する児童会活動を大切にしています。職員間の合言葉は、「準備しすぎず、信じて任す。」です。本校には、毎月1回の児童集会があります。「トミッキュー」ハブリンセス「コセキング」という、故郷に縁のあるものをモチーフにしたキャラクターをつくり、集会運営委員会の児童が全校を楽しませてくれます。

また、本校では異年齢縦割り集団遊びを「レインボーリング」と呼び、毎月実施しています。低学年の児童も楽しめるように、6年生が内容やルールを工夫します。掃除もレインボーリングのチームで行うため、上級生が下級生に範を示し、より良い方向へ導く習慣が日常の中にあります。

おわりに

今、教育界が抱える諸課題を解決するためには、「学校が好き」「ふるさとが好き」という児童を育てることが必要不可欠であり、最も効果的な方法ではないでしょうか。これからも、地域総がかりで、児童にとって魅力ある学校づくりを追求していきます。

「なかつがわしりつかわつせしきょうがしん」

中津川市立川上小学校

住所 〒509-9201
中津川市川上409番地7
TEL 0573-74-2313
児童数 300名



〔地域の自然や風土〕
中津川市川上地区は、岐阜県の東部、中津川市の北東部に位置しています。長野県南木曾町と境を接し、裏木曾国立自然公園の景勝地でもあります。「清流ともみじの里」をキャッチフレーズに、地域の自然を生かした里山づくりと、夕森公園を中心に「県下一のみじの里づくり」に取り組んでいます。



川上小学校校舎



たんぼぼ班遊びの様子



学校の教育目標

自分の考えをもちみんなとともに
向上しようとする子
○かながえる子 ○あたたかい子 ○きたえる子

学校のためもの① おあじな挨拶

本校には、学校づくりの四本柱として、「おあじな挨拶」「かわり学習」「まごころ掃除」「つながり読書」があります。中でも「おあじな挨拶」は、子ども達の誇りのもてる姿として位置付けています。「おあきな声で、あいてを見て、①ぶんから、②まえをつけて」する「おあじな挨拶」を全校みんなができるよう、毎年4月当初に行う「1年生を迎える会」では、6年生が1年生に向けて実演をしながら伝えます。「○○さん○○先生、おはようございます」と、今日も朝から元気な声が玄関で、教室で響いています。

学校のためもの② たんぼぼ班活動

毎週水曜日は、縦割り班活動の「たんぼぼ班遊び」から一日がスタートします。全校児童が4つのグループに分かれ、鬼ごっこやドッジボールなどをして楽しみます。6年生が中心となり、計画から反省会まで進め、班をまとめます。同じ日の掃除時間には、「たんぼぼ班掃除」も行っています。全校児童が30

学校のためもの③ 天然スケート場

本校には、50年ほどの歴史を誇る「天然スケート場」があります。毎年、12月ごろからまちづくり協議会子育て支援部会の方々と保護者の皆さんのご協力のもと、自然氷結した池に用水の水をホースでまき、氷を厚くして「天然スケート場」を造っています。子ども達は、お正月も返上して準備して下さる地域の方々に感謝しつつ、スケートの時間を心待ちにして楽しく活動しています。1年生は、6年生にスケート靴の履き方や滑り方などを手取り足取り教えてもらいながら練習することで、見る見る間に上達していきます。校内検定もあり、子ども達は「名人」目指して取り組み

学校のためもの④ 「ふるさと学習」を支えてくださる地域の皆さん

「地域の方々とともに、ふるさと川上に生きる子」のスローガンのもと、子ども達は生活科や総合的な学習の時間を使って、「お茶摘み」「手話」「カワゲラウォッチング」「米作り」「篠笛」「夕森もみじまつりボランティア」などを体験し、「ふるさと川上」について学びます。その道のスペシャリストの方々を中心に、地域の皆さんのご協力なくしてはできない学習です。地域の皆さんは、毎回快く引き受け、子ども達が楽しく学べる環境を整えてくださっています。今年度より「コミュニティ・スクール」が本格的に始動します。地域の方々との直接的なふれあいを大切にしながら、「ふるさと川上」への愛着や誇りを豊かに育てていきたいと考えています。



スケートを楽しむ子ども達



スケート場の整備の様子



ふるさと学習
「お茶摘み」



ふるさと学習「田植え体験」



ふるさと学習
「篠笛」



ふるさと学習
「カワゲラウォッチング」

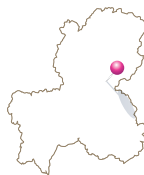


ふるさと学習
「夕森もみじまつりボランティア」

「けろいりしみやだしちうがっこう」

下呂市立宮田小学校

住所 〒509-2511
下呂市秋原町宮田1340番地
TEL 0576-5510077
児童数 555名



〈地域の自然や風土〉

宮田小学校は、下呂市秋原町の北部に位置しています。山林に囲まれ、近くには飛騨川が流れるなど自然豊かな環境の中で子どもたちは元気に過ごしています。また、近くには江戸時代初期の元和6年(1620年)に創建された八幡神社があり、4月の例大祭には鐘を鳴らしながら笠をかぶって踊る「鶏鬨楽」が行われます。これは親から子、子から孫へと300年以上受け継がれているもので地域の誇る伝統文化となっています。



春の校舎風景です。



宮田スクールサポート隊による登下校の見守り活動です。令和4年度、岐阜県地域子ども支援賞を受賞しました。



学校の教育目標

生き生きと 心豊かな 宮田の子

学校のたからもの① 地域で育つ宮田っ子

本校は、地域の多くの方に支えられています。毎日、宮田スクールサポート隊の皆さんに見守られながら登下校しています。夏のどんな暑い時も冬の凍りつくような寒さの時も子どもたちの安心・安全を願って見守りをしてくださっています。また、読み聞かせのボランティア団体(系でんわの会)の皆さんは、定期的に学級や全校への読み聞かせをしてくださいます。子どもたちは毎回どんなお話が聞けるのか楽しみにしています。

学習では3年生の総合学習に食品加工業やトマト農家の方など、学校に来て話をしていたり、栽培している現地で直接話をしていたりしています。5年生では、全国でも有名なブランド米の生産者の方に初まきから稲刈りまで丁寧に教えていただき米作りを体験しています。

昨年度は、学校運営協議会や地域の方々による「宮田っ子、祭りやってみん会」というイベントが行われました。これは地域ふれあい活動の一環として、ふるさと宮田で育つ子どもたちに宮田の祭りを継承し守り受け継いでもらいたいという願いで実現しました。神



ブランド米生産者の方の田をお借りして稲作の体験学習です。この写真は稲刈りの写真です。

学校のたからもの② PTA活動

楽や獅子舞、男女の舞(踊り)、そして鶏鬨楽。実際に子どもたちが体験できるようにプロگرام化されました。獅子舞の獅子頭をかぶったり、神楽の太鼓を叩いたりして当日は貴重な体験をすることができ、「大人になったら、獅子舞をやってみたい。」「舞が踊れるようになりたい。」といった感想をたくさんもちました。そして、今年度はそのお祭りに舞の踊り手として参加する子どもが出てきました。

本校PTAでは、「子どもを受け止め一人を大切にするPTA活動」保護者が主体的

に関わり、楽しめるPTA活動を活動目標としています。月1回のあいさつ活動では、「どこで出会うでも気軽に声をかけ合うことができる大人と子ども」を目指して、登校してきた子ども一人一人に保護者があいさつをしています。

次に環境整備活動では、全校児童と保護者で運動場の草抜きや石拾いをしたり、遊具のペンキを塗ったりするなど、一緒に活動することで多くの人と触れ合えるようにしています。きれいになった運動場や遊具と一緒に眺めることで満足感や一体感を味わえる貴重な時間となっています。

学校のたからもの③ 宮田っ子班活動

低学年の子どもへの読み聞かせは、その保護者が順番に朝活動の時間に読み聞かせをする活動です。これを読んであげたいなあと思う本を保護者が選びます。読み聞かせをする保護者の子どもは、自分の親がみんなに本を読んでいるという光景を誇らしく感じとても嬉しそうにしています。

本校は1年生から6年生までが一緒に活動する「宮田っ子班」があり、とても仲良く生活しています。その土台になるのが月に2回の班遊びです。昼休みの時間を使って、6年生がみんなで楽しめる遊びを考えます。また、年に一度、子どもたちが大変楽しみにしている「宮田っ子祭り」があります。これは宮田っ子班でゲームを考え、お互いにそのゲームを楽しむイベントです。ゲームといっても本などに書いてあるものではなく、自分たちでオリジナルの道具やルールを作りみんなが楽しめるように宮田っ子班全員で役割分担をして準備をします。「宮田っ子祭り」は、他学年と関わり、それぞれが役割をもち、自分で考え判断し、仲間と協働しながら行動する力を育む大切な場となっています。

PTAのあいさつ活動です。毎月の最終金曜日に活動しており、全ての保護者が3人~4人で当番になっています。



環境整備作業です。コロナ禍で3年できせませんでした。ようやく昨年度再開することができました。全校児童も参加し、運動場の整備や遊具の色塗り、窓ふきなどを行いました。

宮田っ子、祭りやってみん会の鶏鬨楽の体験の様子です。本番で使う道具を持ってきていただき、説明を受けました。



宮田っ子、祭りやってみん会の神楽の体験です。笛を吹いてもらい、太鼓を実際にたたかさせていただきました。



宮田っ子祭りの写真です。宮田っ子班(縦割り班)ごと、オリジナルのゲームを考えて他の班の児童にやってもらいます。班は、二つに分けます。説明をして遊んでもらうチーム、他の班のゲームをしにいこうチームです。時間で交代します。



「かかみがはらていっしよはらちまっつういっしよ」

各務原市立蘇原中学校



学校の教育目標

未来に夢をもち、自立する生徒

●住所 〒504-0843 各務原市蘇原青雲町1-10
●TEL 058-389-2283
●生徒数 752名



〔地域の自然や風土〕
蘇原中学校は、各務原市の西方に位置し、校区は、国道21号線より北側から岐阜市の市境までと南北に広い。北の市境の岐阜市や関市の方には、権現山があり、自然が広がる地域である一方、南側は航空自衛隊岐阜基地や川崎重工などがあり、住宅街が広がっている。交通の便においても、名古屋鉄道とJRが東西に通っていたり、市営バスが巡回していたりと、とても便利である。

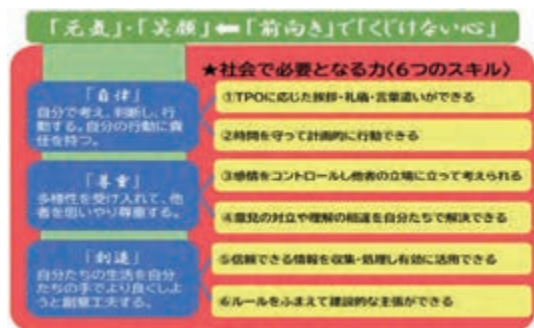


蘇原中学校全景



校訓

蘇原中学校では、学校の教育目標に『未来に夢をもち、自立する生徒』を掲げ、校訓「青雲の志」のもと、日々の教育活動を行っています。そして、子どもたちが将来迎えるであろう、予測困難な社会の中でも、心豊かで力強く生き抜くために、「自律・尊重・創造」の力と、「6つのスキル」を身に付けさせることを目指しています。「自律」とは、自分で考え、判断し、行動する。自分の行動に責任を持つこと。「尊



学校経営

学校のたからもの 「自律・尊重・創造」に係る 主体的な活動例

授業では、これから学ぼうとする仲間との学習への切り替えを大事にして、学習委員会を中心として始まりと終わりの「挨拶」を大

切にしています。また、自主的に生徒が校門に立ち、そこに生活委員会が賛同し、PTA校外生活委員会の方々も加わり、朝のあいさつ運動が展開されています。
授業の始まりには、「1日2分を6時間で12分。年間200日で40時間の学習になります。」と学習委員長の呼びかけの下、どのクラスでも2分前の学習が教科係を中心として行われています。

「尊重」

毎年「シリーズ人権」と称して、互いの立場や意見に耳を傾け、相手の気持ちを尊重しながら自己の生き方を考えて生活しています。令和2年度には「LGBT」について、令和3年度には「発達障害」について、令和4年度には「視覚障害」について、講師の方々と学校へお招きし、そういった方々と共生できる社会について考えました。さらに、令和3年度より、制服の変更を行い、生徒や保護者からの意見も大切にしながら、多様性に対応できる制服を市内で先駆けて取り入れました。



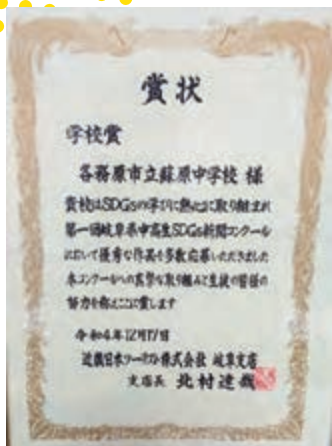
挨拶への取組



多様性に対応できる制服



シリーズ人権の様子



第一回岐阜県中高生SDGs新聞コンクール 学校賞



生徒が運営する体育祭

「創造」
令和4年度より、総合的な学習の時間において「持続可能な開発目標(SDGs)」をテーマにし、1年生では各務原市における取組について調べ、2年生では他の地域の様子や視野を拓いて自分たちができることについて考え、3年生では企業の取組を学びながら、さらに実践し、発信していくことを目標に活動を広げています。昨年度は自分たちの訴えたいことを新聞や動画にして企業コンテストに応募し、「第一回岐阜県中高生SDGs新聞コンクール」において、「学校賞」をいただくことができました。
また、新型コロナウイルス感染症が感染症法上2類から5類へ引き下げられたことを受けて、今年度はさらに学校の教育活動の幅を広げる一環として、5月24日に「生徒会中心の体育祭」を行いました。企画から運営まで、ボランティアを募り、「自分たちがやりたいこと」「自分たちでできること」「依頼しなければならぬこと」などを考えて実施することができました。

3月号を読んで

みんなで家庭教育!の記事を読みました。早寝・早起き、食事、持ち物チェック、宿題の見届け、習い事の送迎…と、毎日忙しくあつという間に過ぎていきます。子育てについて、ゆっくりと考える暇もなく、怒ることもあります。でも、小さなことでも、子どもが頑張ったことは褒めるようにしています。やりたいと言ったことは、なるべく体験させてあげたいと思っています。子どもが壁にぶつかった時、サポートしてあげられる体勢しておきたい。困った時、まずは親に相談すれば大丈夫だと思えるような親子関係を作っておきたいと思いました。(Iさん)

「生活習慣は一生のプレゼント」というコラムを読みました。小児生活習慣病という症状は何かで知っていましたが、だんだんと身近になってきてしまっていることに不安を感じました。子どものおかれている環境、生活を見直していこうと思います。(Mさん)

「鮭の花園焼き」がとてもおいしそうでした。家でも一度、作ってみようかな。(Iさん)

お試しクッキングの鮭の花園焼きが色鮮やかで春らしくていいですね。簡単に作れそうなのでひな祭りの時の一品にしようと思います。(こちらの地域は4/3にひな祭りをします)(Tさん)

「お試しクッキング」のコーナーがいつも楽しみで、参考になります。2、3品載せて欲しいです。(Sさん)

発達障がいの子と共生を読ませていただきました。学習が普通ペースでないや努力不足や集中力のなさや非難されがちですが、本人が授業についていこうと、見えない努力をしているのに否定されることがある。それは、本当にやる気を失わせてしまう。集団の中にいると、みんなに合わせて自分の大切な個性が生かせない時がある。みんなが個性を認め、お互いの長所を生かした集団になれるとみんなが輝ける。困っている時は、その状況を相手に伝えることがとても大切です。それが分かれば手を差し伸べてくれる人はいる。理解しようとしてくれる。今回の特集で、困っている人にまず寄り添い合う大切さを学んだ。(Sさん)

「子の思い、親の願い、教育の窓」いつも楽しみに拝読しております。共感できる内容が多く、励まされる事もあります。子どもも親も日々成長ですね。(Kさん)

「きらりキッズ」の記事が良かったです。さくらお体験隊の楽しい活動がよく分かりました。鳥羽川調査隊、楽しそうですね。揖斐小学校、創立150周年おめでとうございます。隣の校区なので興味深く読ませていただきました。(Iさん)

PTA会長さんの子育ての話がたくさん書いてあり、どこの家庭も子育てに苦労されているんだなと少し安心しました。「親の背中を見て子は育つ」と改めて実感しました。(Kさん)

PTA²⁴ 保険 2023年度加入

7月いっぱいお申し込みができます。

1. 岐阜県 PTA 連合会の団体割引 **30%**、優良割引 **20%** が適用されます。
2. 学校のタブレットを壊した賠償責任も補償します。
3. 中学校卒業までらくらく自動継続です。毎年の手続きは不要です。
4. ウイルスによる入院にも備えて、病気の補償を一層充実させました。
5. 加入が義務づけされた自転車による損害賠償責任に対応しています。
6. 「賠償責任保険加入済」自転車添付用反射ステッカーを差し上げます。



お申し込みは

スマホ・タブレットよりアクセスし、入力してください。

お通帳をお手元に、所要時間は約5分です。
※JAは口座の設定ができません。



PTA保険パンフレットが確認できます。

24WISE



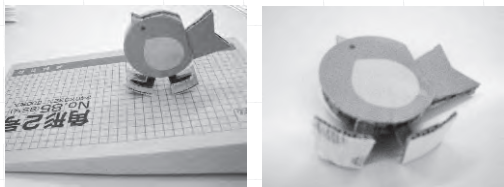
もくじ わが子のあゆみ 2023.7 No.476 初夏号

表紙 岐阜市立柳津小学校

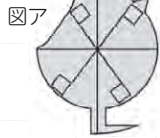
- 1 学校のたからもの
 - 富加町立富加小学校/中津川市立川上小学校
 - 下呂市立宮田小学校/各務原市立蘇原中学校
- 11 特集 「続・親子でサイエンス!」
- 17 みんなで家庭教育!
 - 岐阜県環境生活部環境生活政策課
- 18 先生!ありがとう!
 - 保護者から先生へ贈る感謝の400字メッセージ
- 19 「多様性尊重の教育②」
 - みんな、いっしょに 安田 和夫
- 21 保健室ノート 工藤 実紗
- 23 私の先生④ 平出 廉
- 25 わが家の宝物 小川 恵子
- 26 リレーエッセイ④ 橋本 祐理子
- 27 子育て半生記 奥山 慎司

- 29 楽しい読み聞かせ③ 養老町立養老小学校PTA
- 31 親の背中⑩ 山岡 江美子・大野 富生
- 33 私が出会った1冊の本【続59】
 - 市川 理恵・安藤 昇
- 35 子の思い 水谷 りん・又吉 美海・川島 愛音
 - 親の願い 鴨下 愛・松山 昌代
 - 教育の窓 藤井 彰・清水 立貴
- 40 話そう!語ろう!わが家の約束 石原 直樹・岩田 好弘
- 41 親子ではてな
- 42 お試しクッキング
 - 岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会
- 43 ふるさとの伝承 中津川市立阿木中学校
- 45 きらり!キッズ! 飛騨市立河合小学校
- 47 夢中!熱中!我らが部活 瑞穂市立穂積中学校
- 49 私たちのPTA 揖斐川町立北和中学校PTA

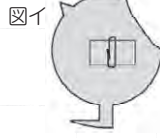
実験2 「なぜ、歩けるの？」



③ 1cm²の板を12枚作り、3枚をのり付けした立方体を作り、図アの4カ所に付けます。



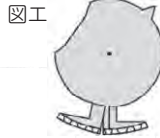
④ 図イのように、表からクリップを差し入れ、セロテープで留めます。



⑤ 図ウのように、②で作った足をクリップ軸に通します。



⑥ 図エのように、4カ所の立方体にのりをつけ、もう一つの小鳥を貼り付けます。



⑦ 図エの前側の足にすべり止めの布をはった足板を貼ります。

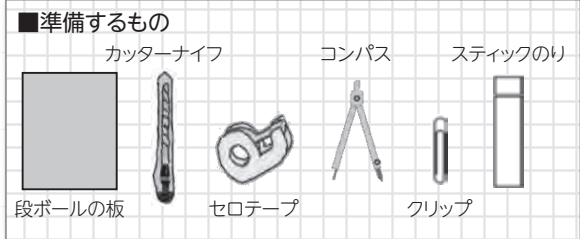


Q-1 歩く速さを変えるにはどうしたらいい?
Q-2 他の形(動物)でも出来るの?

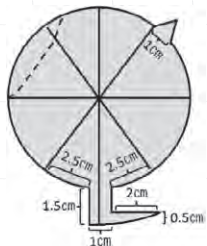
★キーワード【 重心の位置 】



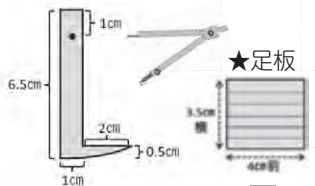
低学年の娘とスロープをカタカタと下っていくおもちゃを段ボールで製作しました。子どものアイデアを出るだけ否定せず、経験させることを意識して製作してみました。デザインはカービーを真似た紫色のネコだそうです(笑)スロープは緩やかよりも角度があるものが良いのでは?とのことで傾斜が25度ほどのスロープを段ボールで製作しました。肝心のネコの部分は上手く歩行することなく転がりました。子どもは重すぎるのでは?尻尾を大きくしてバランスが取れるのでは?など自分なりの仮説、予測を立てている様子が微笑ましくも、逞しくも見えました。親の知らぬ間に、物事をよくみて、自分なりに考えるようになったのかなと、感心しました。完成後は高学年の息子も手を出して挑戦してききました。ちよつとした遊びのつもりでしたが、大きな気付きを与えられたような、父子のよい時間となりました。



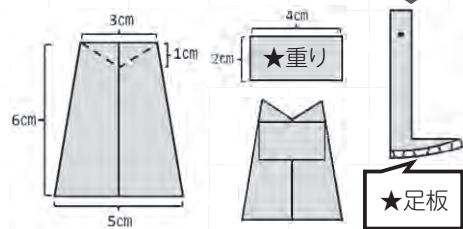
① 段ボールに右図のように直径8cmの円を描き、くちばしと前側の足を書き加えます。これを2枚作成します。また、点線部分を切り取り、小鳥の形にします。



② 右図のように後ろ側の足を2本作り、のり付けします。上から1cmの位置に穴を開け、足板を足の曲線に合わせてのり付けします。



⑧ 尾羽を右図のように2枚作り、重りを挟んで貼り合わせます。



★尾羽を小鳥に差し込みます。入れ方を変えると重心が変化します。



★小鳥を坂に置くと歩き始めます。

『失敗から学ぶ親子の時間』

今渡南小学校PTA 岩井淳

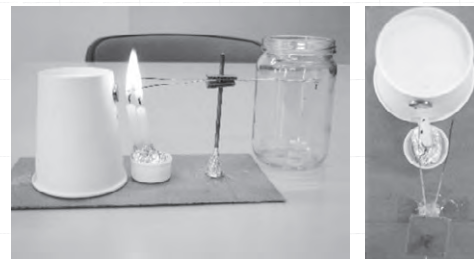
低学年の娘とスロープをカタカタと下っていくおもちゃを段ボールで製作しました。子どものアイデアを出るだけ否定せず、経験させることを意識して製作してみました。デザインはカービーを真似た紫色のネコだそうです(笑)スロープは緩やかよりも角度があるものが良いのでは?とのことで傾斜が25度ほどのスロープを段ボールで製作しました。肝心のネコの部分は上手く歩行することなく転がりました。子どもは重すぎるのでは?尻尾を大きくしてバランスが取れるのでは?など自分なりの仮説、予測を立てている様子が微笑ましくも、逞しくも見えました。親の知らぬ間に、物事をよくみて、自分なりに考えるようになったのかなと、感心しました。完成後は高学年の息子も手を出して挑戦してききました。ちよつとした遊びのつもりでしたが、大きな気付きを与えられたような、父子のよい時間となりました。

特集 「続・親子で サイエンス!!」

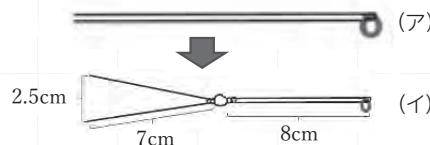
岐阜県PTA連合会では、今年度の重点の1つとして、家庭教育の充実(コミュニケーションを大切にする)を掲げています。学校での出来事や新聞・テレビで見たニュース、身の回りにある疑問等を、少し意識しながらとりあげ、親子で取り組んだり、考えを伝えあったりしてみる。そんな些細なことの積み重ねが、家庭内のコミュニケーションを深めるとともに、身の回りのことに対する興味や関心を、相手の話を聞き自分の考えを深めようとする意欲を高めます。親子で一緒に考え、より良いものを目指して改善していくといった「主体的・対話的な学び」に、ぜひ親子で挑戦してみてください。



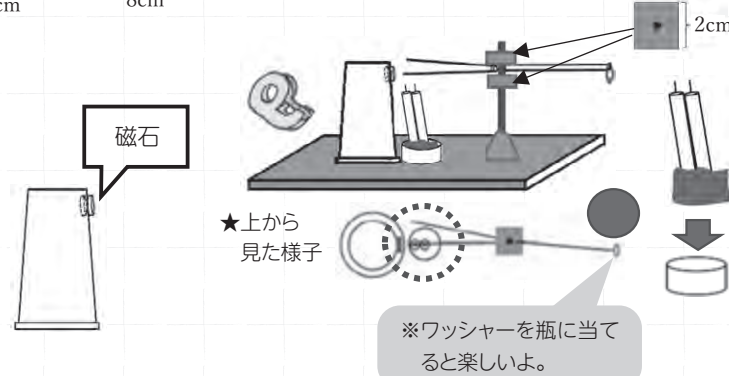
実験1 「なぜ、針金が動くの？」



③ 長さ30cmの針金を折り曲げ、(ア)一端にビーズまたはワッシャーを通した後、(イ)中央付近に輪を、もう一方の端がVの字になるように針金をねじって加工します。

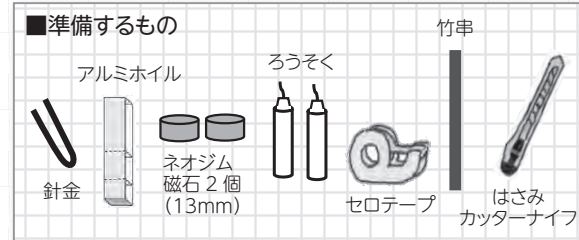


④ 右図のように、磁石2個を紙コップを挟むように取り付けます。



Q-1 針金(鉄)を加熱すると何が起こるの?
Q-2 鉄以外の金属では作れないだろうか?

★キーワード【 キュリー温度 】【 熱減磁 】



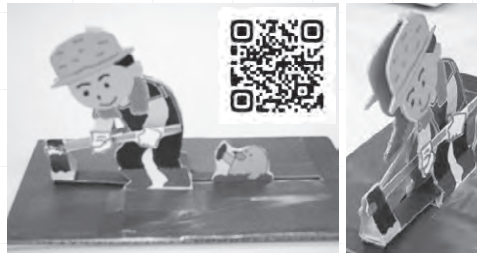
① 段ボール箱から、縦10cm横20cmの板1枚と針金固定用に縦横2cmの板を2枚切り取ります。

② 右図のように竹串(10cm)にアルミホイルを巻いて土台を作り、段ボールの板に立て、セロテープで固定します。

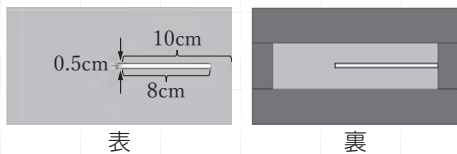
⑤ 竹串に針金固定用の板を固定し、③の針金を乗せ、上からもう一枚の板を乗せて、針金を安定させます。★針金がスムーズに動くように押さえつけすぎないようにしましょう。その後、磁石と針金の先端の間隔が5mmほどになる所に紙コップを固定します。

⑥ 左図のように、ろうそくをアルミホイルで包み、ペットボトルキャップに押し込み固定します。炎が針金の先全体に当たる位置(点線円)に置きます。

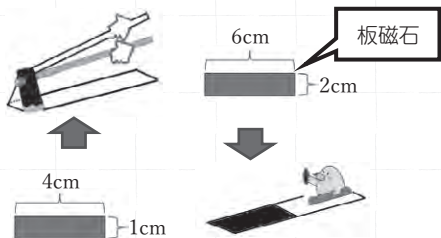
実験4 「なぜ、鍬が動くの？」



②①の板(ア)の1枚に下図のように穴を開けます。また、裏側の四隅に段ボールを貼り付け(濃い色の部分)、板を補強します。

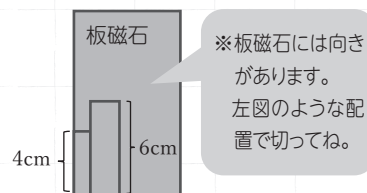


③①の板(イ)に(エ)鍬、板(ウ)に(オ)モグラを下図のように貼ります。また、板磁石を鍬は下から、モグラは上から図のように貼り付けます。



Q-1 どうしてくっついたり反発したりするの？
Q-2 板磁石の性質をもっと応用できないかな？

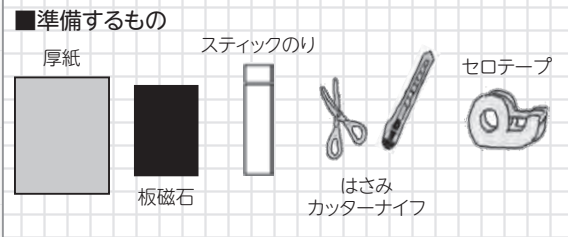
★キーワード【 板磁石内のN極とS極の配置 】



※板磁石には向きがあります。左図のような配置で切つてね。



『なぜ、畑を耕す動きになるのか?』
桜ヶ丘小学校PTA 溝口 泰伸
夕食時妻と子供たちと実験をしました。
最初キャラクターをプリンターで出力し工作開始です。ハサミで切り取り、厚紙は家にあつた段ボールを使用しました。マグネットシートをカットして厚紙に張つて出来上がり。ところが、キャラクターおじさんは畑を耕してくれませんか。どうしたものか再度説明を読んでみてもしかしてマグネットのカットする方向かも、最初縦長にカットしていたマグネットシートを今度は横長にカット、再度取り付けてみると！カタカタカタ(わーい)家族が和んだ瞬間でした。



①厚紙(菓子箱)から、ア-畑(縦10cm 横20cm)の板2枚とイ-鍬用(縦1cm横8cm)、ウ-モグラ用(縦2cm横12cm)の板を各1枚ずつ切り取ります。また、エ-鍬、オ-モグラ、カ-農夫の絵(QRコードからプリントアウト)を貼り、切り抜きます。

④鍬の後方1cm幅の部分を畑に貼り付けた後、農夫を図のように貼り付けます。また、鍬の柄を農夫の脇に通し、自由に動くよう調整します。

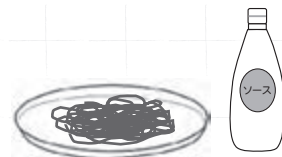
⑤モグラを前後に動かすことで鍬が上下に動くことを確認したら、①の(ア)のもう一枚の板を下に張り付けます。

実験3 「なぜ、麺の色が変わるの？」



②水(コップ1/2・100cc)を入れて沸騰したら①のキャベツを入れ、蓋をして2分間ほど蒸します。紫キャベツがしんなりとし紫色の汁が出たらキャベツを取り出し、煮汁の中に麺を入れてよくかき混ぜます。

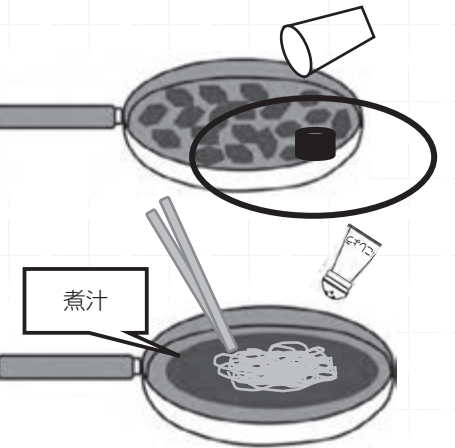
④アはそのままだし、イの麺にウスターソースをからめると色が変化します。



①紫キャベツ100グラム(葉3~4枚)をざく切り(幅1~2cm)にします。

③2分間ほど炒め、麺の色が変わったら、塩・こしょうで味を調べ皿に取り出し3等分(ア・イ・ウ)します。

⑤ウの麺にレモン汁(大さじ2杯)をかけ、よくかき混ぜると麺の色はまたまた変化します。



⑥ア〜ウと紫キャベツを盛り付けて三色麺の完成です。どんな色になるんだろう。ちょっと不気味だけど、どんな味がするのでしょうか。



Q-1 なぜ、麺の色が変わるんだろう？

Q-2 紫キャベツをゴボウに変えると？ 他の野菜ではだめなのだろうか？

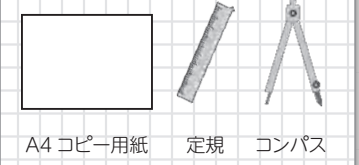
★キーワード【 色素 】【 指示薬 】

『なぜ、色が変わるの?』
紫キャベツの紫色は、天然の色素であるアントシアニンによるものです。このアントシアニンは、pHによって化学構造が変化し、色が変わります。この科学の知識を食品に応用したんです。紫キャベツを煮出した液に麺を加えると緑色になったのは、アントシアニンがアルカリ性に反応して緑色に変化する性質があるからです。焼きそば麺には、生地をのばしやすくするために「かんすい」というアルカリ性の成分が使われています。これが麺の色を緑色に変えた原因です。
では、レモン汁をかけたらピンク色になったのはなぜか。これは、レモン汁が酸性だからです。レモンにはクエン酸という酸が多く含まれているため、アントシアニンがピンク色に変化したというわけです。
理科の授業で使うリトマス試験紙も「リトマスコケ」という苔の一種から取り出した液体の性質(アルカリと反応すると青色に、酸と反応すると赤色になる)を利用しているんですよ。

実験6 「なぜ、鳥のように飛ぶの？」



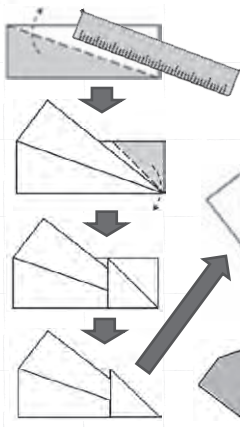
■準備するもの



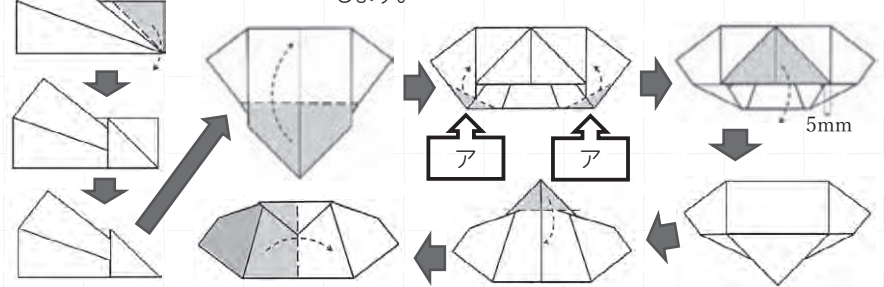
①コピー用紙を半分に折り、色つき部分を折り返します。裏返して同じように折ります。



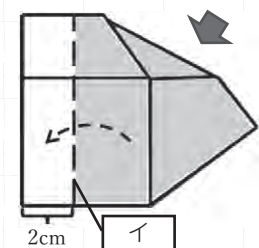
②斜めに開いて翼を作ります。※定規を当てると折りやすいよ。次に機首の部分を折ります。裏返して同じように折ります。



③②を開き、機首の頂点を機尾に向けて折ります。次に昇降舵の一部となる三角の部分(ア)を折り、機首の部分に戻します。



④2cm幅で翼を折ります。また、「イ」の部分を何度か折り曲げ、よく動くようにします。



※風の弱いところで実験しよう！機首の部分を折り重心を変えるのも…



- Q-1 翼を動かして飛ぶようにするためにはどうすればいいかな？
Q-2 紙の大きさや紙質、重心の位置をかえるとどうなるのかな？

★キーワード【 昇降舵 】



「もっとならば大きくなるかな」「強く投げた方がいいのかな」「コピー用紙や習字紙なら半紙など色々な紙で飛行機を折って、何度も挑戦。どうしたら遠くまで飛ぶのか、飛んでいる時に、パタパタと羽が動くにはどうしたらいいのか、子ども達3人で考えました。結果、紙が薄すぎると空気の抵抗に負けて長く飛ばないし、厚すぎると落ちやすくなるので、わりと厚紙程度の紙の厚さがちょうどいいことが分かりました。飛ばし方にもコツがあるようで、羽を起した状態で飛ばすと羽がよりパタパタ動くことを発見。その他、飛行機の先端にクリップをつけて重くしたり、羽を曲げてみたり、胴体部分を2cmより小さくして羽の部分を大きくしてみたりと色々な飛行機を作りました。3人それぞれが一番よくできた飛行機を使って飛行機レース。廊下の端から端まで長く飛んだ時やパタパタと羽がたたくさん動いた時にはテンションマックス！楽しい！」と言いつつ何度か飛行機を飛ばしていました。飛行機づくりを通して子供たちと楽しく実験することができました。

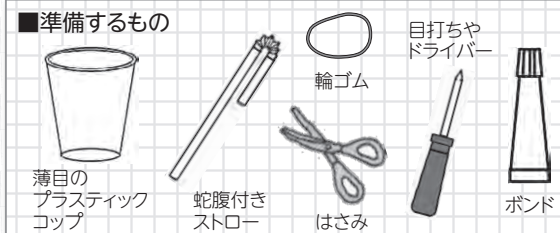
「飛行機の実験」

足近小学校 糟谷あかり(小5)、
あいり(小1)、智大(保育園)

実験5 「なぜ、水を入れすぎるとこぼれるの？」



■準備するもの



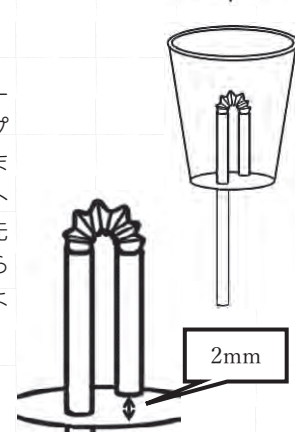
①蛇腹付きストローを曲げ、蛇腹が潰れないように輪ゴムでとめます。



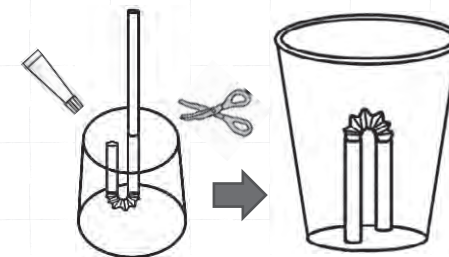
②プラスチックコップの底の真ん中に目打ちやドライバーを使ってストローが通るくらいの穴を開けます。



③①で作ったストローの長い方をコップの穴に差し込みます。その際、ストローの短い方の先が、コップの底から2mmほどになるようにします。



④ボンドでストローをコップに固定(水がもれないようにします)し、出ているストローをコップの底近くで切り取ったら完成です。早速コップに水を入れてみましょう。どこまで入れるとこぼれるのかな？



※飲み物を入れて8割程度なら普通のコップとして利用できますが、それ以上欲張って入れると下の穴から水がこぼれてしまいます。

- Q-1 なぜ、水がこぼれるの？
Q-2 他の材料(陶器など)でも作れないかな？

★キーワード【 サイフォンの原理 】

欲張らない=「教訓茶碗」と言われているよ



「なぜ、こぼれるの？」
関ヶ原小学校PTA 三和 達矢
「マジックを見せてあげる。」と娘を呼び、コップ内のストローを手で隠し水を注いでいくと、コップ半分ほど入ったところで、コップの底から水が「シャー」とこぼれ落ちた。目を丸くした娘が「なぜ、こぼれるの？」と不思議そうな顔をした。サイフォンの原理を教えながら、娘と一緒に「タコラスのカップを作り、一緒に水道の水を入れていくと水がこぼれない。ストローの曲がっている所が細くなり過ぎたことが原因。修正後は成功し、楽しく水遊びが出来ました。」

家庭で子どもに教えたことや、育みたい力など、家庭教育のヒントになる情報をお伝えします！！



みんなで家庭教育！

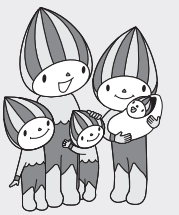
家庭や地域で豊かな体験を

体験など様々あります。これらの体験は、自然や文化芸術作品といったモノとの出会いだけでなく、体験を通じた専門的なスタッフや学芸員といった人との関わりもあります。そうしたモノや人との関わりのある体験は、子どもの積極性やコミュニケーション力、自己肯定感、協調性など、大切な力を育みます。さらに、身体や心の成長を促す働きかけにもなります。特に、人やモノや社会に実際に触れ、関わり合う直接体験は、最近増えている疑似体験や間接体験よりも、子どもの成長に良い効果があると言われています。様々な体験を通して育んだ力は、やがて、子どもが社会で自立し、人生をよりよく生きることを支えます。わが子にどのような体験が必要なのかを子どもの興味関心や発達段階に応じた体験の質に注目し、考え、夏休みにさせたい体験を計画されるとうれしいと思います。

しかし、昨今、「子どもの体験格差」という言葉が聞かれます。子どもの体験に差があり、「経済的理由」から、子どもがやりたい体験をさせてあげられなかった経験があるという回答があります。子どもがやってみたい体験を存分にやらせてあげたいと思うのが親心ですが、先述した社会で生きていくうえでの大切な力を育む体験は、実は、日常の親子や家族の関わりでも得ることができます。

例えば、普段、家庭で大切にされている『早寝早起き朝ごはん』といった規則正しい生活体験や読み聞かせなどの読書体験、親子で一緒に取り組む遊びやスポーツなどの運動体験、課題と一緒に取り組む探求学習体験などは、子どもたちの生きる力を育てています。なぜなら、規則正しい生活体験は健康管理の力を育むからです。親子で取り組む探求学習体験は、学ぶだけでなく、やりぬく力も育みます。遊びや運動体験を通してお父さんやお母さんたち家族から「上手だね」「強くなっ

たね」と褒められ認められることは、子どもの積極性や自己肯定感を育てています。地域の清掃活動や交流イベントなど地域行事に親子で参加することは、公共心や礼儀作法、大人への憧れなどを親や地域の大人の姿から学んでいます。



先日、図書館で見かけたお父さんは「たくさん本があるね。いつも〇〇ちゃんか、どうして？と思うことは、本を読むとわかるよ。本には父ちゃんも母ちゃんも知らないことがたくさん書いてある。本を読んでわかったことを父ちゃんにも教えて。」と、男の子に話かけておられました。男の子は嬉しそうに「うん、おもしろそう。」と答えたものの、本を手取ることはありませんでした。すると、お父さんは「よし、じゃあ、ほかにも見てみよう。〇〇ちゃんが知りたい、おもしろいって思う本がきつとあるよ。」と、男の子に寄り添い、一冊ずつ本を取ったのかはわかりませんが、お父さんの関わりは、この先、男の子が様々な疑問をもったときに、きっと図書館でのお父さんとの関わりを思い出し、疑問を解決するヒントを本からも得ようとする姿につながるのだと思います。さらに、お父さんの愛情を感じた体験

が、男の子を強く支えることでしょう。家庭や地域には、子どもがよりよく成長し、自立するうえで力を育む場面が多くあります。非日常の特別な体験も素敵ですが、大事なことは日々の暮らしで、どのような内容を、どう体験させ、人とのどのような関わりを通じてわが子の成長を促すのか、親が意図的に仕組んでいくことです。夏休み、みなさんの家庭で子どもたちの豊かな体験が生まれ、笑顔あふれる日々となりますように。

環境生活政策課
家庭教育担当 若森美恵子

「家庭教育学級応援通信」には、家庭教育のヒントとなる取組がたくさん紹介されています！



先生！ありがとうございます！

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

日頃よりPTA活動にご理解、ご協力いただき誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の影響でPTA活動も制限され、取捨選択をしながら活動を行ってきました。ひとえに先生方の協力があつて行えたと思います。ありがとうございます。

私には中学3年生の息子がいます。息子は生後数か月から眼鏡を着用しています。距離感もあまりつかめません。

そんな息子が部活動を決める際、軟式野球をやるといいます。息子は、リスクが多く、難しいことがあることは伝えましたが、それでも息子はやるということです。しかし、受け入れる学校は大変でしょうから、一度話をしなければならなかった矢先、息子から特に何もなく入部できたと聞かされました。この時は本当にうれしくなりました。学校としてはリスクも考え、議論されたと思います。しかし、そんなことは少しも出さず、息子の考えを尊重し、受け入れていただきました。ありがとうございます。

間もなく息子も部活動引退です。ここまで無事に続けてこられたのも、先生方が一人一人の子どもたちへ寄り添い、成長を見守っていただいているからだと思っています。先生、本当にありがとうございます。

(匿名)

information

■作品を募集しています。
イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお願いします。

宛先はいずれも 〒500-8816 岐阜市菅原町3-3 岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで

採用の方にはお礼をさしあげます。
■本誌の購読について
本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度初め(4~5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問い合わせください。

■9月号のお知らせ(予告)
特集=定期大会講演「家庭でできるアクティブ・ラーニング~生活の中で自分で考える力をつける~(前編)」/表紙=滝呂小/学校のたからもの=加納小・正木小・今尾小・八幡西中/わが家の宝物=岐南中/リレーエッセイ/みんなで家庭教育/みんな、いっしょに/保健室ノート=川辺西小/私の先生=明智小/子育て半生記=宮中/楽しい読み聞かせ=島小/親の背中=時小・東小(中津川市)/1冊の本=鷺沼第一小・美山中/わが家の約束=下宮小・緑ヶ丘中/子の思い=長良東小・南帷子小・小泉中/親の願い=馬瀬小・線陽中/教育の窓=宮代小・肥田中/先生!ありがとうございます! =南小(瑞穂市)/お話しクッキング/ふるさとの伝承=鏡島小/きらり!キッズ!=多良小/夢中!熱中!我が部活=高鷲中/私たちのPTA=福寿小

車椅子体験を通して学んだこと

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

「車椅子体験会」をやりたい

5月17日(水)、本学の羽島キャンパスで、「車椅子体験会」をやりました。このシリーズに何回か登場している馬田萌々花さんの発案です。萌々花さんも気がついていました。この4年間で、やり残していることのひとつが、この「車椅子体験会」でした。

以前にもご紹介しましたが、彼女は、「車椅子を使っている自分たちをかわいそうだななんて見てほしくない。むしろ、胸を張って、車椅子と共に生活している。お気に入りの車椅子に乗っている自分の姿をみんなに見てほしい。」との願いがありました。そして、遠くから見るのではなく、体験を通して、「車椅子のこと」や「車椅子を使っている人のこと」を理解してほしいと強く願い、今回の企画になりました。

この企画を最初に相談されたときは、メモ書き程度のものでしたが、ブラッシュアップして、一人でも多くの学生を集めるために、ポスター、パンフレットを作成するようになってきました。そして、室内後方に設置したスラロームにも挑戦する学生もいました。

松永製作所では、一般用の車椅子だけでなく、ユーザーの体格等を細かく採寸し、オーダーメイドで製作していることや、好きな色のパーツを選んでもらい組み合わせていることなどをお話しいただき、学生もびっくりしているようでした。

車椅子散策に出かけよう

いよいよ試乗です。まずは、室内で、いろいろな車椅子に乗ってみることにしました。「自由に乗ってみましょう!」との合図で、思い思いの車椅子に乗りました。直線的に進むことはできませんが、曲がるのが難しそうです。車椅子ユーザーの3名が、曲がり方を実演して解説してくれました。「なるほど」…と、どの学生も徐々にうまくなっていきます。すると、楽しくなり、表情が柔ら

ることにしました。その時の萌々

花さんのメモにあったキーワード5つを萌々花さんの大好きな車椅子の写真の周りに吹き出しとして入れました。「車椅子ユーザーって歩けない人?」「車椅子ってどんなもの?」「どんな車椅子があるの?」「岐阜聖徳学園大学って車椅子に優しい環境なの?」「車椅子の仕組みを知りたい!」…車椅子ユーザーから、直接、話を聞いた、車椅子体験をしたりする中で、これらの疑問が解決できるように願ったものでした。

県内外からの

頼もしい応援団が到着

当日、県内外から頼もしい応援団が駆けつけていただきました。

まず、松永製作所、以前紹介した養老町にある車椅子製造メーカーであり、国内のトップ企業ですが、ここより、開発を担当されている和田さん、諸橋さんに来ていただき、お持ちいただいた車椅子の特徴などをご説明いただきました。

また、萌々花さんの車椅子ユー

れない学生にとっては蟻地獄のようなものとなってしまいます。また、ようやく買うことができ、日陰に移動しようとする、2mほどのなだらかな斜面になっている、これが危険なこともみえてきました。

参加者の声

「芝生のところを移動するのが難しいとわかった。」「バリアフリーとかユニバーサルデザインとか整備されているように見えるけれども、わずかな段差や気がつかないような斜面があることで車椅子操作が難しいことがわかった。」「自動販売機の砂利や隙間に入ると動くことができないことがわかった。」など、困ったときの話がいくつかでてきました。萌々花さんから「そういうときに、周囲に『助けてもらえませんか』『手伝ってもらえませんか』といえるようになることは私たちにとても大切なことです。」との発言がありました。

また、「操作に慣れてきて、うまくできるようになりました。」という発言には、萌々花さんから「私

ザー仲間が2人来てくれました。

一人は県内から、一人は大阪からとのことでした。聞くところによると、日頃から、SNS等で、萌々花さんと情報交換したり、現状報告をしたりしている関係だそうです。今回の車椅子体験会の趣旨に賛同し、協力を申し出てくれたそうです。2人とも、参加する学生に積極的に話しかけてくれたので、打ち解けあえるまでに多くの時間は要しませんでした。

車椅子についてもいろいろ

最初に、萌々花さんから、車椅子体験会の趣旨や願いが話されました。参加している学生の学年はバラバラで、そのほとんどが、萌々花さんのことを詳しくは知りません。「自分にとって車椅子は体の一部」と紹介されて、びっくりしただろうと思いますが、さらには、「車椅子フェチ」を自認する萌々花さんの車椅子自慢の話は、まるで、恋人を紹介するように聞こえたことでしょう。

室内には、松永製作所が持ち込んでいただいた多種多様な車椅子も、はじめはうまく操作できないポイントもいくつかあったけれども、今ではウイリー等を使いながら、使う技術を高めてきています。」と話してくれました。

そのほか、エレベーターでの気遣いとして、「車椅子ユーザーの人を先に出してあげなければ」と、扉を押さえて「どうぞ、どうぞ」と言ってくれる人が多いけれども、実は、「先に他の人が出てもらい、広い空間で操作しやすい環境を作ってもらえる方がうれしい。」という「あるある」事例には、他の車椅子ユーザーもさかんにうなずいておられました。

こうして車椅子体験会は終わりました。2時間ほどの体験会でしたが、とても実りある会になりました。今後、2ヶ月に1回ぐらいのペースで続けたいと考えています。「かわいそうだから助けてあげましょう。」という福祉教育から脱皮して、「車椅子を安心安全に使える環境作りをみんなで作ろう」というワークショップ型の体験学習を考えてみたいと思いませんか?」



性の多様性を知る「JYD」

「性的マイノリティの人は、左利きの人と同じくらいいるんだよ。」という話をしたとき、ある子どもが言いました。

「じゃあ、普通にいるってことだ。」—そうです。性的マイノリティは特別なことではありません。ある民間団体の調査に、性的マイノリティに該当する人の割合は、日本人口の10%弱という結果があり

ます。左利きの人の割合も、人口の約10%と言われています。学級に左利きの人が数人いるように、性的マイノリティの人も私たちにとって身近な存在なのです。一緒に生活する学級の仲間、これから出会うたくさんの人々、それから、性と向き合う未来の自分、誰のどんな性も、その人の個性として尊重できるよう、私たちは『性の多様性』を学習し、理解する必要があります。

です。性には「からだの性」、「こころの性」、「好きになる性」、「表現する性」の4つの要素があり、性のあり方は多様であることを話しました。10人の仲間がいれば、性のあり方も10通り。人と違って当たり前。性はその人をつくり成す大切な要素であり、尊重されるべきものなのです。

さて、先日、小学校6年生の学級活動で、性に関する授業を行いました。テーマは『性についての考え方を広げよう』

授業を通して子どもたちは、「性を誰もが理解して、差別のない世界になってほしい。」「困っている人や悲しんでいる人がいたら、相談に乗りたい。」「人それぞれの考え方があから、相手を尊重し

ながら生きていきたい。」と、考えを広げ、授業で学んだことを日常の人との関わりを生かそうとする姿が見られました。

授業の最後に、1つ宿題を出しました。

「今日学んだことを、お家の人に話してみましよう。」—私は日頃から、家庭での対話を大切にしてほしいと願っています。親子の時間をつくる、話し合っ

決めること、みんな違ってみんないい。」というコメントをいただきました。身近な人が性についての理解者であることは、いつか性について悩むかもしれない子どもの心を少しでも軽くするためではないでしょうか。相談したいと思っ

えを深める、ということはもちろんのこと、今回は、『お家の人と性についての話をした。』という経験をしてほしいと考えました。授業の内容を共有することで、保護者の方も『性について学んだ人』になります。保護者の方からは、「自分らしさを大切に、すべての人が生きられる世の中になるといい。」「相手を思いやる心を持ち続けてほしい。」「性は自分

誰もが初めてのの人生を生きています。性についての悩みや疑問が生まれるのは当たり前のことです。決して、恥ずかしいことでも後ろめたいことでもありません。子どもが声を発したときには、どうか真摯に耳を傾けてほしいです。一緒に考えてほしいです。それがきくと、子どもたちが『自分らしく生きる』ための支えになります。

現在、市内の養護教諭部会で、性に関する教育の研究をしています。近年、子どもたちを取り巻く社会情勢や生活環境は急激に変化しており、性に関するトラブルも増加しています。LGBTQをはじめとする性の多様性に関する教育の充実もより一層求められます。しかし、日本は先進国の中でも性に関する教育が遅れているのが現状です。『知らない』ことでトラブルに遭ったり、自分や相手を傷つけたりしてしまうのは悲しいことです。そんな悲しい思いをする人がいないように、養護教諭として、日々、子どもたちの『知る』を支えていきたいです。『知る』ことで自分や相手を尊重できるように、『知る』ことで、自分らしく生きられるように—

私が大切にしていること

瑞穂市立牛牧小学校

教諭 平出 廉

「先生として子どもたちと接するようになった今、ふと自分の学生時代を思い出します。学生時代の様々な思い出が蘇ってきますが、その中でも小学校六年生の時の思い出は今も色褪せることなく心に残っています。それは、小学校六年生の一年間が私の人生にとって最も影響したからだと言えるでしょう。」

今回、このような原稿を書く機会をいただいたので、私が先生を志すきっかけになった小学校六年時の担任のS先生への感謝の気持ちを込めて思い出を綴っていきこうと思います。

S先生は私が五年生の時に赴任してきた先生で、先生が他学年の子たちと楽しそうに遊んでいる姿を見て、私は「来年はS先生がいいな。」と漠然と思っていました。若くて爽やかで面白い。当時の私にとって兄のような憧れの存在でした。

『One for All All for One』S先生が掲げていた合言葉でした。一人はみんなのために、みんなは一人のために協力し合って生活していこうという先生の教えは、「仲間を大切にする人になってほしい」という現在の私の願いにも大きく影響しています。人は自分一人だけの力では生活していくことができません。だからこそ仲間と関わる力や支え合う力などが重要です。当時の私はカッコいい英語を覚えたから口だけにならないように行動に移して、この言葉を知らない人に自慢してやろうというようなことしか考えていませんでしたが、『なぜ学校に来て仲間と一緒に活動し、協力して問題を解決していくのか』という先生が伝えたかったメッセージが今の私なら理解できる気がします。

そんな先生の教えの中でも私が今大切にしていることが二つあります。

一つ目は「指示待ち人間ではいけない」というものです。先生はよく「指示待ち人間ではないけないよ。自分たちでやるべきことを考えて動くのが六年生であり、学校のリーダーだよ。」と言っていました。当時の私たちは先生に言われたことや人に言われたことをやり抜く力がありました。自分たちは何ができていて、何が足りていなくて、何をすれば足りていないことができるようになるのか、自分たちのことを考えて実行する力がありませんでした。先生の言うことを守っていれば大丈夫だという意識が強かったからです。S先生はその考えを壊してくれました。先生が中心となって生活するのではなく、私たちが考えたことを認めてもらい、私たちの力で学級を動かしていく経験が確実に私の糧となっていることは間違いありません。このような経験をするのができたのもS先生が私たちを信じて、一緒になって考えたり喜んだりしてくれたからだと思います。私も子どもたちを信じ、子どもたちが主体となる活動を目指していきたいです。

二つ目は「先生も一緒にみんなと楽しむ」というものです。先生はほぼ毎日私たちと遊んでくれました。授業中ではなかなか聞くことができない話ができたり、自然なコミュニケーションが取れたりと何気ない時間も私たちのために使ってくれていました。また、運動会などの行事や普段の授業でも、楽しいことがあれば一緒に笑い、上手くいかないことがあれば一緒に解決策を話し合い、成功したことや上手くいったことがあると自分のことのように喜んでくれました。

最初は先生が面白いから学校が楽しいと思っていました。しかし、自分たちで活動を考えることやそれを後ろから支えてくれる先生がいたからこそ楽しいのだと気付くことができました。私が経験した楽しさを子どもたちにも経験してほしいと強く思います。

先生として、S先生が伝えてくれたことを大切にして子どもたちと同じ目線になって活動を楽しみたいと思います。

そして、S先生のように子どもたちのよきに気付き、子どもたちも私も「また明日も学校に來たい。仲間に会いたい。」と思えるような温かい学級をつくっていききたいです。

わが家の宝物

「我が家の宝物」と聞かれ、何があるかと考えてみましたが、やはり「家族の時間」です。ありきたりかもしれませんが、4人の娘と主人と過ごす時間が一番の宝物です。

我が家では、食事の時間になると、一日の出来事を娘たちが同時に話し始めます。一度に話されても私は聞き取れるはずもなく、「うんうん」とあいづちをうつつのが精一杯の時も・ちゃんと聞いて！と言わんばかりの表情をする娘たちに、話す順番を決めたり、「はい！次の子！」と司会者のようにお喋りの会を進めたり・そんな時間がとても大好きで大切な時間です。

子ども達がまだまだ小さかった頃、早く大きくなれ！と思っていた娘たちの成長には嬉しさもありますが、寂しさもあります。4月、長女が進学のために一人暮らしを始めました。一人減り、静かになるのかと思いましたが、相変わらず賑やかです。

これからも、何気ない日々の生活に感謝し、我が家の宝である「家族の時間」を大切にしていきたいです。



リレ エッセイ 24

各務原市立稲羽東小学校PTA

橋本 祐理子



これまでの子育ての中で、反省していることがあります。それは娘が小学校に上がるころ、娘に自分の不安を押し付けたことです。

「小学生になるんだからちゃんとしなきゃ」と気負ってしまった私は、「朝の支度や片付けもひとりできるようならなきゃ」とガミガミ。べったり甘える娘に「だっこは赤ちゃんだよ。もう小学生でしょ！」とプレッシャーをかけてしまっていました。ガミガミ叱っても「ちゃんとした小学生」になるどころか、子どもはイライラし始め、それを見て私もイライラし、イライラが伝染して家の中がギスギスしてきてしまいました。

これはマズイと解決策を求めて私は学びに出ました。でもこの時はまだ、「子どもを変えよう」と思っていました。アンガーマネジメントを学ぶと、イライラしている子どもの見え方が変わって、目の前が明るくなるようでした。面白い！と、はまった私はコーチングや心理学と次々に学ぶのが楽しくなっていました。

その学びの中で気づいたんです。あの時、プレッシャーや不安を感じていたのは、娘ではなく私で、自分のプレッシャーと不安を娘にぶつけていただけ、だったことに。子どもはそのまま素晴らしいのに、「ちゃんとできないとダメな子、ダメな親だと思われる」と私が勝手に不安になっていたんです。

このことに気づいたら親子関係が大きく改善しました。私の不安は私自身で手放して、娘に押し付けなくなると、娘はのびのびと楽しそうに自分の夢に向かっていくようになりました。

子育ての不安はゼロにはできないけれど、親も子どもも躓いたり迷ったりしながら成長するんですよね。これからも何度も躓くでしょうが、それも味わいながら、子どもとの時間を大切に過ごしていきたいと思います。



次回は... 川辺町立川辺北小学校PTA 金澤 由希さん

将来の夢を持つことで

「将来の夢は何ですか？」
 子どものころは良く聞かれたり、作文を書いたり
 しました。

大人になった今でも将来の夢、やりたいこと、好
 きなことがありますか？

私には夢や好きなことがあったので、度々訪れた
 困難な状況を乗り越えてこられたと思っています。

小学校時代の私の夢はプロ野球選手と発明家です
 た。野球が好きで少年団に入り仲間と一緒に練習を
 したり、試合をしたりと楽しい経験をしていくうち
 に、将来プロ野球選手になりたいと思っていました。

夏の練習が辛く、辞めたくなくなった時もあります
 が仲間と野球をやる楽しさがあり、辛い時期も乗り越
 えて続けていくことが出来ました。

しかし中学になると体の小さかった私は同級生に
 比べて体力面や能力面での差が出てきました。

技術面でも上には上がいる現実を目の当たりにし、
 自分は到底プロにはなれないと痛感しました。

野球は好きだったので続けてはいましたが、将来
 の夢ではなく好きなことのひとつとなりました。

私にはもう一つ好きなことがあり、モノを作った
 り、構想したりすることが好きでした。

さまざまな困難がいつも立ち塞がってきませんが、
 夢中になって頑張っているといつのまにか乗り越え
 てしまうものです。

子どものころの夢は発明家とボヤとした夢でし
 たが、今では「自分で考えた新しいものを商品とし
 て世の中に出す」に変わってきました。

3児の父親になって思うことは、子ども達には夢
 や好きなことを持ちつつつけて欲しい。

夢や好きなことを追い続ける意欲こそが、さまざ
 まな困難や苦難を乗り越えるためのエネルギーとな
 り自ら成長していけると思っているからです。

夢や好きなこと、やりたいことは皆それぞれ違う
 と思いますが、どんな夢でもやりたいことでも、応

おもちゃを改良したり、壊れた家電を分解したり
 修理したり、余った部品で違うものを作ったりと発
 明とは程遠いかもしれませんが、自分で構想しても
 のを作っていくことが楽しかったです。

好きなことをやりながら学生時代をすごし、つい
 た仕事は日用品の設計開発という仕事でした。自分
 の考えたものを作ることが出来る仕事に付けて嬉し
 かったのですが、当初は内心とても不安でした。好
 きなことではあるが、仕事として責務を果たせるレ
 ベルのことが本当に出来るのだろうか？失敗して大
 変なことになってしまうのではないだろうか？世の
 中に通用するレベルになれるだろうか？

不安を抱えながらも夢中で働き、足りない部分を
 補うために勉強もしました。

学生時代にもう少し勉強に力を入れておけば…、
 沢山の経験をしておけば…、後悔をしながらですが、
 自分の出来ることを精一杯頑張ったと思います。

気が付くと20年同じ仕事をしていました。
 厳しい状況に何度も追い込まれ辛い時期もありま
 したが、同じ仕事を続けてこられたのは、「好きなこ
 とだから、夢だから」という思いがあったからだだ
 と思います。

援してあげたい。これから経験していくであろう困
 難にも、負けずに乗り越えていけるだけの意欲を大
 切にしてあげたい。

まだ好きなことが見つからない、将来の夢が見え
 ない。そんな時期もあると思います。

そんな時は好きなことややりたいことを一緒に見
 つけていく、ゆっくり見守りながら子どもの成長を
 支えていく親になりたい。

これからも夢を追って人生を楽しんでいる親として
 の姿を見せつつ、子ども達の好きなこと、やりたい
 こと、夢や目標を応援していきたいと思っています。



PN. ネギトロ (岐阜市)



PN. あちゃ (高山市)

question ①

出題・和田 智咲 (郡上市)
 (答えは41ページ)

100から1を引く
 と何色？



読み聞かせで子どもたちの豊かな心を育てたい

養老町立養老小学校PTA

養老小学校PTAでは、役員が中心となり、「読み聞かせ」の活動を行っています。子どもたちがさまざまな本や話に触れる機会を作ること、想像力を育んだり、豊かな感受性を身に着けたりしてほしいとの思いから、この活動を続けています。

●読み聞かせ活動の流れ

年度始めに、ボランティアの方を募集し、先生方と読み聞かせの回数や実施時期について相談しながら活動を進めています。

●事前準備について

実際に読み聞かせを行う前には、自分の子どもに聞かせて練習される方や、当日の楽しみにしたという思いから、あえて子どもたちがいない時に練習してから本番に臨まれる方など、ボランティアの方がそれぞれに工夫しながら準備していただいています。

また、子どもたちの反応を見ながら読み聞かせを行うために、ペー지를めくるタイミングを調整したり、子どもたちが見づらい角度がないかなど、細かい部分まで事前に確認したりしてから参加されているという方までいらっしゃいます。

●読み聞かせを通じて感じたこと

気づいたこと(やりがいのこと)
楽しそうにお話を聞いてくれることはもちろんのこと、話の展開に応じて、素直な気持ちを口に出してくれたり、反応してくれたりする様子を見ると、嬉しくなるという声が聞かれました。

●読み聞かせの内容について

ボランティアとして参加していただける方の多くはお母さんで、低学年で集まりやすい傾向です。また、どの学年においても、概ね年に二回以上、読み聞かせが行われています。

読み聞かせを行う時間帯は、朝の会と一時間目との間の『朝活（小テストや読書などの時間）』の時間を活用し実施しています。

●本選びについて

読み聞かせに使用する本は、図書館で学年ごとの推薦図書を選

んだり、季節にあったものや、子どもたちが楽しく聞けそうなもののほか、ボランティアの方が、子どもたちに伝えたい思いや願いが込められたものを選んだりなど多岐にわたります。

また、本選びに困ったときには、図書館の先生からアドバイスをいただき、参考にさせていただいています。

特に、低学年の児童については、紙芝居や大型の絵本を選ぶようにし、少しでも子どもたちに楽しんでもらえるよう工夫しています。

●家庭での取り組みについて

このほか、本校では年に二回程度、「読書週間」があり、この期間に読む本の冊数を目標として掲げたり、異なるジャンルの本に挑戦したりする取り組みを長年続けています。

この週間には、親子で同じ本を読み、その感想を一枚のカードにまとめるなどし、各家庭において楽しみながら読書に取り組んでいます。

●新たな取り組みについて

昨年度も、コロナで授業参観が中止になるなど、保護者同士が交流する機会が限られていたことから、学年通信を介して、おすすめの本を募集し、その内容を紹介し合った学年もありました。

●これからの読み聞かせは…

今後は、地域の読書サークルや読み聞かせのグループなどの協力を得て、子どもたちの楽しい時間をさらに充実したものにしていきたいと考えています。



お母さんは家庭の太陽

美濃市立美濃小学校

PTA会長 山岡 江美子

「お母さんって太陽みたい、いつもポカポカで温かくて。一緒にいると元気が出るよ。」ある日突然、長女がかけてくれた言葉でした。我が家は、会社員の夫、パートタイマーの私、小学五年生の長女、小学二年生の次女、猫一匹の、何の変哲もない一般家庭です。特別な子育てもしていないし、きつと世間一般の皆様が抱えている子育て、家庭の悩みを同じ様に抱えていると思います。

そんな中で、私と夫が心がけている事が一つ。「やりたいことをしよう。人生は一度きりなのだから、後悔のない様に生きよう。」です。特に私は、明日死んでも悔いがないように、と思いつながら日々を生きています。親になると、我慢が必要な場面や、大人なのだから、と諦める事はありませんか？親だから、大人だから、と誰が決めたのでしょうか。

子供の成長

羽島市立竹鼻中学校

PTA会長 大野 富生

我が家は、中学2年の長女、小学6年の次女、小学1年の長男の3姉弟です。3人の子供は親の背中をどう見ているのか？見えていないのか？日々考えさせられます。

先日末っ子長男のお迎えに行った帰り道、細い側道にて対向車に道を譲っていた。ドライバーなら常識のあるお礼、会釈をすると、隣に座っている息子も、私と同じ様に頭を下げてお礼をしていた。何ともびっくり!!教えてもないが、自分もしないと…と…思っている行動なのだろう。これが親の背中と言うものか。いつまでも小さいと思っていた息子だが、4月からピカピカの1年生。ちゃんと成長しているのだと実感しました。

保育園の時の送迎時も、横断歩道で小学生が渡り終えると、こちらのドライバーに向かってお辞儀をしてくれる。朝から心温まる光景。これも助手席の息子はちゃんと

うか。あなたが自分自身で決めつけていませんか？親だって、大人だって、一人の間です。子供達と同じく、みんながそれぞれ、自分の人生の主役を張って生きていかなければならないのです。幸せになる権利があるのです。そこに他人の意志は存在せず、自分自身で舵を取っていかないといけない、と私は思っています。

そんなこんなで、私は日々自分のやりたい事をやり、行きたい場所に行っています。時には家庭が疎かになることもありですが、夫も子供達も、怒ったり文句を言ったりすることはありません。それどころか、いつもご機嫌な母を見て冒頭の言葉が長女から出てきたのです。

自分のすべきこと、役割を果たすことはもちろん大事な事ではありますが、自分自身を満たしてあげることはそれと同じくらいに重要な事だと思っています。誰しも、自分に余裕がないと人に優しくすることなんてできないのですから!もしこれを読んで

目に焼き付いている。

「僕も1年生になったら、こうやってやるんだよね?」と。これはお兄ちゃん先生の背中だ。

またある日、道でお互い譲りあってしまつて、どちらの車も動きません。すると、ふと左から物が動くのが視界に入る…その先を見ると、助手席で息子が大きく手招きをしている。おいおい!それはちょっと…そんな見本は見せた覚えはないぞ。どこでそんな背中を見たのか…でも間違いなく私の背中であろう。ただただビックリ。相手の方には見えていたのか、先へ進んでもらえた。まあ、息子の誘導あつての事で良かったのか…。子供は何でも吸収していくから恐ろしい。

いつまでも甘えん坊で、小さいと思っていた息子ですが、そんな小さな眼差しで大人は常に「見られている」んですね。

子供の成長は、親や地域いろんな人の手によって育まれているんだと、日々思わざ

いるあなたが、お子さんの為に、家庭の為に、と自分の気持ちを我慢して日々頑張っているならば、たまには自分の好きな事をし、好きな時間を過ごして、自分のご機嫌を取ってみてほしいです。そして自分自身を満たしてあげた後で、とびきりの笑顔で家族に接してみてください。きつときつと、太陽みたいに家庭がぼかぼかと温かくなると思います。

同じ様に、子供達には自分の好きなこと、やりたい事にどんどんチャレンジしてほいてほしいと思っています。親として、「こうなってほしい」という思いはもちろんありますが、子供の人生です。私たち親が勝手に決めてしまつてはならないと思っています。自分の意志で選んで、自分の意志で自分の人生を生きていってほしいと思っています。時には親として自分の気持ちを娘達に押し付けてしまうこともあるのですが、子供達の「可能性の芽」を摘んでしまわない様に、優しく見守っていきたいと思っています。

れます。

子供は、「親の言うことは聞かない」けれど、「親の真似はする」と聞きます。良いところは親に限らず、地域の人や周りの友達、誰でもいいからどんどん真似してもらいたい。けれども、ダメなところは真似してほしくない。悪いところを見せないように、親も日々成長していかなければいけないなと思わされます。良い事も悪い事も、全てが背中に映っている。良い姿勢を示すことで、子供の進んでゆく道が作られていくのだなと実感し、こちらも背筋が伸びる思いです。

子供達には、人を思いやる心、感謝する心を持つてほしいと思います。そんな背中を見せられるよう、親も日々成長していきたいと思っています。

中学2年の長女をはじめ、子供たち皆の成長が楽しみです。



望み

著者・雫井脩介
出版社・角川書店

可児市立広見小学校PTA子育て委員長
市川 理恵



この本は、最近親とコミュニケーションを取りたがらない高一の息

子規士(ただし)が、ある日突然行方不明になり連絡が取れなくなりました。そんな中、規士と仲の良かった与志彦が複数人に殺害されたニュースが流れます。行方不明は全部で三人、そのうち犯人と見られる逃走中の少年は二人。また規士には数か月前からサッカー部の採め事、退部、悪い友達との交流、度重なる無断外泊など不安定な要素もあり、子どもを信じたいのに信じきれぬのかという親の葛藤が描かれています。マスコミは名前こそ出しはしないが、規士が犯人であるかのように自宅に押しかけます。周りの人間も規士を犯人扱いし、家族は精神的に追い込まれていきます。

規士が殺されているかもしれないが犯人でないことを望む父・一登と、犯人であったとしても生きていてくれることを望む母・貴代美の間で亀裂が生じてきます。私は読んでいくうちに一登の気持ちには理解できるのですが、貴代美の思いが今の私には理解できませんでした。ただこのような状況になったら、自分も親として子どもにただ生きていて欲しい、どのような罪を犯していても一緒に罪や罰を引き受けようという気持ちで湧いてくるのだろうか、むしろそのように考えることができるの

が本場の親の愛情なのかと考えさせられました。人は被害者にも加害者にもならないように生きていくのが理想ですが、家族が被害者や加害者になってしまふ可能性は誰にでもあります。自分の子どもを信じたい親の気持ち、それとは別に自分の子どもの外での日常生活についての情報が少なすぎる。特に高校生ともなると学校等の話をたくさん話してくれない、仲良しの友だちの名前や顔もわからない、家でもスマホを見てる姿しか目にしない、何に夢中になっていくかも把握できない、そんな状態の中では小さい頃どのように育ててきたかという自分たちの過去を根拠に子どもを信じるしかありません。

読んでいくうちに一登や貴代美に感情移入していた私は、真相が明らかになった時、規士が友人思いの優しい子で自分の意思をちゃんと持っていたことが嬉しく、両親の子育てが間違っていないことが証明されて、悲しい事件の中でも少し救われた気持ちになりました。子育て中の保護者におすすめてみたいです。

銀河鉄道の父

著者・門井慶喜
恵那市立岩田中学校PTA
安藤 昇



本書は、宮沢賢治の父・宮沢次郎の目を通して、息子をはじめとする家族を描いた作品です。『小説現代』に2016年10月号から2017年7月号にかけて掲載され、加筆を経て2017年9月に講談社より単行本が刊行されました。第158回直木三十五賞受賞作です。

この小説は、宮沢賢治が幼少期から青年期にかけての姿を、主に父政次郎の視点から描いた作品です。賢治は家業を継ぐべき長男でしたが、学問の道を志し、理想を求め、創作に情熱を注ぎました。勤勉、優秀な商人であり、地元の熱心な社会奉仕・慈善事業などを熱心に行い、支援する者でもあった父政次郎は、この息子にどう接するべきか苦悩し

ました。

物語は、賢治が幼少期に、父政次郎から「銀河鉄道の夜」を聞かされる場面から始まります。賢治は、後にこの物語に魅了され、いつか自分もこのような物語を書きたいと思うようになります。

賢治の幼少期から少年時代には、妹と一緒に石集めに没頭し、ここから第一歩目の将来を決めます。

しかし、祖父の代から営む質屋を長男である賢治が継ぐべき、そのためには学は不要、との父政次郎の考えと対立します。

ただ父政次郎は賢治に言い負かされるというよりも、賢治は自分とは違う一人の人間であり将来は本人が決めるもの、との考えや、これほどの優秀な成績であることを活かさないことはもったいないとも考え

進学を認めるようにもなります。

賢治は、花巻農学校を卒業後、東京に出てアルバイトをしつつ、農学や改宗した宗教を学びます。しかし、結局は家業も継がず、地元に戻って教師や技師として働きながら、創作活動を続けます。

東京での出版がうまくいかず自費で本を出したりと、なかなか芽の出ない時期を過ごしたりしました。

成績優秀が故の賢治の行動は、周りから見ればしばしば滑稽にみられ、親の政次郎も困惑はしますが、お金の援助を求められれば仕方なくとも未来への期待を込めて応じます。

成長するにつれて対象は変わっていくのですが、賢治の一つのことへの集中力というより執着心と言ったほうが正しがるものは、異常ではないかと思われにくいです。

父政次郎は賢治の生き方に理解を示すことができません。

賢治は、生誕100周年を記念して、その息子を愛し支え続けます。賢治はそんな父に支えられながら自分の道を歩んでいきます。

物語は、賢治が37歳で亡くなる場面まで終わります。賢治は、生涯夢を追い続け、多くの名作を残しました。亡くなる少し前には新聞への連載も決定しました。

そんな時、父政次郎は家族の前では家長としての尊厳のため見せない姿を見せません。

皆が夜寝静まったあと掲載された記事を読み漁ったり、新聞を大量に購入して周りに配ったりと、息子の人生を誇りに思っていました。

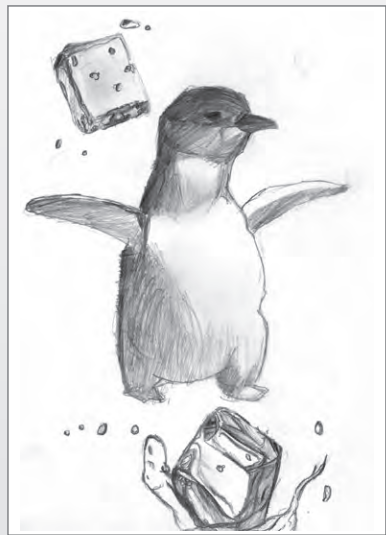
時代も移り変わり核家族化が進む昨今、現代の価値観とは異なる場面も多々あります。

Illustration&Quiz

イラスト&クイズ



PN. みるる (山県市)



PN. ESAN (岐阜市)

question

出題・和田 夢弦 (郡上市)
(答えは41ページ)

カメとラクダとサイが買い物をしています。何を買うのでしょうか?

子の思い

6年生をおくる会

大垣市立安井小学校

2年 水谷りん

今週の水曜日、学校で、6年生を送る会がありました。

はじめのことは、めあてがおわったら、かく学年のはっぴょうです。2年生は、ソーランぶしをおどりました。わたしは、だいひょうとして、ソーランぶしを前でおどることにしました。今年もどりがをとりました。どろがはじまって、『ソーランぶしのかけ声そろっているかな。』としんばいになりました。でもだいじょうぶでした。ちゃんとかけ声があつてほつとしました。

かく学年のはっぴょうがおわつて校長先生の話を聞きました。そして6年生をおくる会がおわつたら、『6年生にかんしゃの気もち、どどいているといいな。』と思いました。

3年生になったらお兄ちゃんか6年生になります。来年はことばを言うだいひょうになって、お兄ちゃんにかんしゃの気もちをつたえたいです。

えがおの花さく小泉小

多治見市立小泉小学校

六年 又吉美海

私は五年生のとき、あいさつに力を入れて、多くの人に自分からすれ違いあいさつをしていました。今でも、あいさつはとても大切だと思っています。

今年度、私は前期の児童会長になりました。今年度の児童会スローガンは、「えがおの花さく小泉小」です。小泉小学校には、ヤシロンという妖精がいて、夢の種を持っています。みんながえがおになって、夢の種から花がたくさん咲き誇る小泉小学校にしたいという願いが込められています。みんながえがおになるためには、あいさつだけではなく、ほかほ

か言葉をつかうことも大切だと思います。六年生では、相手を思いやる気持ちを言葉にすることも頑張ります。これから、各委員会の委員長と助け合つて、よりよい小泉小学校にしたいです。

新しい学級で

各務原市立那加中学校

3年 川島愛音

みんなは、新しい学級には馴染めたのだろうか？ 私は、新しい学級になって、友達が誰もいなくて不安でいっぱいだった。「コミュ障」なので話しかけるのも難しかった。休み時間、周りを見渡すと仲良く話している子もいるし、私と同じで一人きりの子もいるし、廊下に行き、他のクラスにいる仲の良い子のところへ行く人もいる。これは毎年新しい学級になると見る同じ光景だ。でも、これは、3月の学級解散式の時には無くなつてい

る。なぜだろう。

去年は初めから仲の良い子がいたけれど、今年も初めから仲の良い子がいない。一人ぼっちだった。ある日、移動教室の時「一人きりでいかなきゃいけないのか。」と思つたら、クラスの女の子二人が「一緒に行こ。」と誘つてくれた。その時私は、すごく嬉しかった。「どうして、そんなにさげなく誘つてくれるのだろうか。」と疑問にも思つた。「今日だけかな。」と思つていたら、次の日も、その次の日もずっと誘つてくれた。また、休み時間に話しかけてくれる時もあった。私は、その優しさに驚いた。新しい学級で一人ぼっちという不安が消えた。話しかけてくれることが、とても嬉しかった。きっと周りの子も私と同じように、話しかけられたら嬉しいだろうと思つた。だから私は、授業でペアになった時などに積極的に話しかけたりした。そして、私の「目指す自分」は、「誰とでも仲良くできる自分」にした。

みんなも私と同じようなことを

親の願い

(わが子)のスマイル100個

岐阜市立芥見東小学校

PTA 鴨下愛

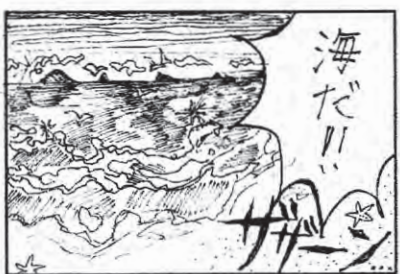
2年半前、私は健康診断から病気が見つかり、大きな手術をする事になりました。当時小学3年生の娘に、私が娘に教えてあげられる時間はまだまだいっぱいあると思つていました。けれど、そうはいかないかもしれない。そう思つた時「時間がない」と焦りました。元気になるために自身のケアもしなければいけない時期でした。しかし、ネガティブなよう

すが私の心を占めているのは、もしもの時に私が娘に残せるものを考える事でした。まずは、入院でしばらく父子家庭になる家族のために物の仕分けと大掃除を始めました。また、もしもの為に「私の娘への願い」のような手紙をiPadのメモに書き始めました。「お父さんを助けてね。自分のことはやるうね」「友達に対して誠実でありなさい」「学校から帰ったらやることは...」「ハネた髪の直し方」まで、書いたことは山ほどあります。でもその手紙は直ぐに辞めてしまいました。そして削除しました。娘はまだまだだうっかりミスが多く、家でも

学校でも叱られがち、自己肯定感低めに育っちゃいました。その娘に最後(?)に伝えたいのはこれじゃないと感じました。(当時の悲壮感たるや!)

そこで新規メモに書き出しました。タイトルは「娘のいいところ100個」。これはいいアイデアだと思ひました。書いていて楽しかったし、娘の成長を噛みしめながら、ホクホクと書き綴りました。「朝、機嫌よくおはよう、つて言えるね」「野菜も残さず食べられるね」「朝勉を頑張つて続けているね」「軽やかに40個くらい書いて、ふと、タップする手が止まつてしまいま

でも実際は...



逆さ言葉

しわおおいおおわし (シワ多い大鷲)

市村 優成 (関市)

た。これは本当に娘のいいところだ
るうか？ただ私の願っている、好ま
しい娘の姿ではないだろうか、何
かモヤモヤとしたのです。そこには
私にとって都合の良い言葉が大半を
占めているように思いました。全部
大切な成長の証なので消しはしな
かったけれど、41個目からは少しだ
け重たいタイプینگになりました。

私は全く違う娘の人格の中に、
尊敬と憧れを見出すように向き合う
事を心がけるようにしました。けれ
ど、これがなかなか難しいのです。
書きながら気づいた私と娘の違いを
受け入れ難い自分がいきました。

反対に、これまでの私自身の苦い経
験から、私と娘、似ている部分を心
配しすぎてしまい、書き留めた言葉
に「[redacted]」を連打。そんなこんなで
自分自身と向き合わせる得ません
でした。ひとつひとつが私の本心に
なるまで考えて、言葉を綴っていき
ました。時々、親の願いや喜びも交
えつつも60個まで書き綴りました。
手術時間直前までタイプし続けたの

で、手術の前の緊張は和らぎ、穏や
かに「いってきます」と家族に手を
振る事ができました。

あれから2年半たって、今も私の
治療は続いています。初めの頃の
『何か残さなくて』という焦りと
は変わり、『娘のいいところ100
個』を、今はライフワークのよう
にゆったりと書き書いています。
きつと100個が完成したら、「娘
へ」よりも、私自身の宝物になっ
ていそうです。

子育てから得たもの

大垣市立星和中学校

PTA会長 松山昌代

我が家の子どもは6人。4回目の
妊娠は一卵性双生児であったが、一
人は死産してしまい、第4子は生ま
れてすぐにNICUのある大きな病
院に運ばれ、最初に対面した時は手
のひらに乗るほどの大きさ。1か月
後はティッシュケースに余るほどの

大きかった。それから保育器の中
に3か月ほど入っていた。

退院までの間、病院に母乳を搾乳
して届けるのだが、病院に行くたび
に様々な重度の障がいや病気のお子
さんに会った。そしているいるな
ことを考えさせられた。わが子は生
まれたときは超未熟児で生まれたの
だが、その後は何不自由なく生かさ
れていることに、今でもふと感謝す
ることがある。思えば、命の尊さや
健康であることの大切さを、身に染
みて感じたのはその時だった。

子どもたちが小さなき、他県か
ら移住してすぐPTAの役が当たっ
た。最初は乳飲み子がいてできるの
だろうか？と思った。しかし、友達
ができたのでそんな心配はすぐに吹
き飛んだ。そこでたわいもない話を
する時間が何よりも、ストレス発散
になった。

そして、10数年のPTAや少年団、
習い事出会った人たちは先生も保
護者も、本当に様々な価値観、想い
を持っていて、それに触れるたびに
私の学びになった。時には意見がぶ

つかり、熱く話し合うこともしばし
ば…

子どもたちが大きくなり、6人の
子どもたちが、それぞれの友達を自
宅に連れてくるようになった。中学
3年男子の会、高校2年女子の会、
高校3年男子の会、大学生の男女の
会、社会人の会。目白押しである。
それぞれの会では子どもたちの今を
聞くことができ、私も楽しみにして
いる。だいたいわが子以外は会話に
混ぜてくれるからだ。

こうした地域の子どもたちの近況
を聞く中で、彼らも遠からず近から
ずの友達に母親にいと話をし
てくれる。大人になった子どもたち
も、自分の仕事や近況報告、漠然と
した思いやちょっとした悩み事を話
す。それをその子の保護者や先生
かつての恩師に折を見て様子を伝え
ることにしている。そういった地域
の繋がりが、地域で子どもたちを育
て（信じて見守る）ことの大切さを
強く感じている。

コロナ禍を乗り越え、社会がまた
元通りになっていくかのように思え

るが、子どもたちの今いる世界はと
ても多様で、移り変わりも早く、孤
立しやすい。私たち親が過ごしてき
た子ども時代とは大きく変わって
いるし、これからもどんどん変わる。
子育てを通じて私はたくさん学ば
びを得てきた。これから子どもた
ちに学ばせてもらおうと思ってい
る。そして人との繋がりは自分の成
長につながるということを、子ども
たちに繋げていきたいと思う。



教育の窓

夢を話すこと聞くとどうなるか

関市立下有知小学校

教頭 藤井彰

「将来の夢(目的)に向かって目
標を決め取り組む」。子どもたちに
望む姿の一つです。自分はどうだっ
たでしょうか。中学、高校生だった
私にとって、少しでもテストの点数
を上げ、少しでも高い偏差値の大学
に進学し、少しでも高い収入を得る
ことができそうな職に就くことが全
てだった気がします。父は、自らの
職であった教師という道に私も進ん

でほしいと願っていた様です。私は、
思う様に点数が上がらない自分自身
への苛立ちから父への反抗心から
か、将来の夢について話すことはあ
りませんでした。父も私の進路に口
出しすることはありませんでした。

さて、私には3人の息子がいます。
そのうち2人は社会人となり既に所
帯をもってそれぞれに生活していま
す。あとの1人も大学卒業後に一旦
就職しましたが、進学し直し、現在
は学生です。彼らそれぞれが中学生
ぐらいの頃、将来の夢を語りました。
彼らの夢は、私にとって突拍子もな
いものを感じられました。親は、子
に自分の知る限りでの安定を望みま
す。一方で、彼らの夢について、難

しいとか無理だとか否定はせず、別
の目標を示すなどの助言もしません
でした。正しくは、否定も助言もで
きなかったのです。自分の経験と見
識の乏しさを改めて知り、そうせざ
るを得なかったということです。何
をどう努力すれば彼らの夢が叶うの
かの見当もつきませんでした。

その後も何度か彼らそれぞれから
夢を聞くことができました。彼らは、
回り道をする事があっても、結果
が伴わなかった時があっても最初に
語った夢に向かって取り組んでいた
様です。現在、長男は社会人として、
夢に向かうために必要な人としての
力を養っています。次男は夢であっ
た職に就くことができ、その中で目

蛇化現象



逆さ言葉

まさか、さかさま
(まさか! 逆さま!?)

高田 瑞希 (各務原市)

志をもちたくましく
生き抜く生徒を

本巣市立真正中学校

教諭 清水立貴

「先生、なんとかして練習時間をもえませんか。」
「僕たちが生徒会担当の先生にお願いしに行つていいなら、いくらでも行きます！」

昨年度の3月、本校を卒業していった生徒達。

新型コロナウイルスの影響を大きく受けた生徒達でした。小学校の卒業式から始まり、中学校の入学式も縮小開催。入学早々の休業措置、オンライン上での初授業。やっとの登校も分散登校。普段の授業での制限はもちろん、多くの行事が中止・縮小となった中学校生活の3年間を過ごしました。

そんな彼らが迎えた3年生の夏。初めての「全校での体育祭」開催が決定しました。もちろん、制限があ

る中の開催でしたが、生徒達は心から喜び、最高学年としてどうあるべきかを考え、歩み始めました。休み時間には、真っ先にグラウンドへ出て競技の練習をしたり、1年生の後輩達に種目のコツを教えたり…。運動が苦手な生徒も「私にできることは…」と考え、マスクをしながら一杯の声援で声を枯らしました。学級での話し合いを積み重ね、担任の私も学級がまとまっていくのをひしひしと感じていたその時。

「学級閉鎖のお知らせ」

を配らなければいけない状況になりました。体育祭数日前から直前までの急な学級閉鎖。お知らせを配る私の声も震え、やり場のない悔しさを、プリントを見ずに裏向きに折ることで鎮めようとする生徒の姿もありました。中には涙を流し、慰め合う姿も。

私は担任として、「それらしい」言葉もかけられないまま、ただただ早退の準備と、保護者への引き渡しの準備をしていました。そして、「何

か担任として声をかけなければ」と思いながら教室に戻るとそこには…「休み中、もう1回大縄の並び順を確認しておこうね!」、綱引きの作戦、考えとく!、「大丈夫! 私たちなら!」と励まし合い、前を向く生徒の姿がありました。そして、私だけでなく教頭先生や生徒会担当の先生に練習時間の確保を懇願しに行く冒頭の姿がありました。

本校の教育目標は、「志をもちたくましく生き抜く生徒」です。予測不可能な世の中をたくましく生き抜くためには、自ら考え、主体的に行動する姿が必要であると、改めて生徒達から学んだ瞬間でした。

1体育祭当日。残念ながら全員揃うことはありませんでしたが、欠席の生徒の鉢巻きを腕に巻き、「先生、絶対に優勝してくるね!」と教室を出ていった生徒達の姿は、今も脳裏に焼き付いています。

家庭での約束事について

高山市立清見小学校PTA 石原 直樹



我が家では、大切な時期に心身共に健全に成長できるように

約束1 睡眠をしっかり確保すること

約束2 朝食を食べること

約束3 感謝の気持ちを忘れないこと

の3点について、約束事として取り組んでいます。ICTの発展はめざましく有意義なものも多くありますが、逆に生活リズムを乱したり、心身の健康に悪影響を及ぼす懸念もあります。そうした環境下でも本当に必要なものを取捨選択するため子どもと話し合い、自ら考え、必要な知識を身につける必要性を感じています。

また、学校の授業に集中できるよう睡眠の確保や基礎体力づくりは大切で、週末を含め生活リズムが乱れないように心がけており、本人には口うるさいぐらいに生活リズムを乱さないように言っ

いたためか、大きな乱れはない状況です。

今後は、しっかりと体づくりをすると共に、感謝の気持ちを忘れず、他人を思いやることのできる大人に育ってほしいと願うばかりです。



家の中で誰でも参加できる家事、「掃除」「洗濯」「食事」…。「時間のある人が家事を率先してやる(手伝う)」をルールにしています。

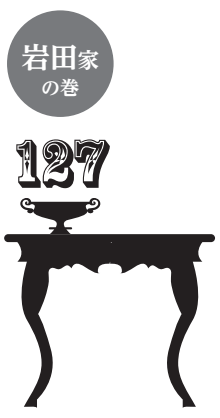
根幹にあるものは、
①『素直』になること
ハイハイ答える素直ではなく、物事の本質を理解し、行動すること。
自分の出来ることを精一杯やり、周りの人のことを思い、何事にもとらわれず、本来の正しさに対して『素直』に行動することが大切だと伝えていきます。

②『掃除』をする
身の回りの掃除をすることは、心の中を整えることになり、正しい判断が生まれます。掃除で綺麗になれば、価値が高まり自信もつきます。

③『感謝』をする
『ありがとう』という言葉伝えること。
ルール遵守は大切です。家族で話し合ったルールはとても素敵だと思います。
『〇〇ダメ、〇〇すること』の規制ルールではなく、今生きている環境下で、自分が何をどうしたらいいかを気づき、率先して行動出来る人間になってくれたら嬉しいですね。

岐阜市立梅林中学校PTA 岩田 好弘

わが家のルール



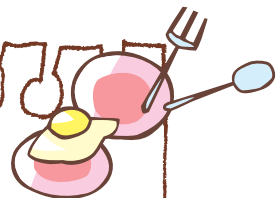
お子さんと一緒に作っておいしく食べられるデザートです。型を使わずラップフィルムを使って作るので、手軽に作ることができます。また、海藻を原料とした粉寒天で作り、氷水に入れて固めるので、待ち時間が短く、すぐに食べられるのも魅力です。

失敗なく作るコツは、①寒天液をしっかり煮立てる。②ラップフィルムの口が閉まらないほど果物を入れすぎない。③ラップフィルムの口は、氷水が入らないように輪ゴムでしっかり止めることです。

涼しげで彩りも鮮やかなデザートを、夏休みに是非作ってみてください。

作り方

- ① 器より大きめのラップを、器の内側に沿うように押し入れてピッタリ付ける。
- ② 果実のシラップ漬けをザルにあげ、果実とシラップに分ける。この時、シラップ70mlを残しておく。
- ③ 果実や果物をさいの目切りにして①に入れる。
- ④ 鍋に水と粉寒天を入れ、よくかき混ぜ、中火で煮立て粉寒天を溶かす。砂糖を加え、約1分煮てから火を止め、②のシラップ、レモン果汁を入れて混ぜる。
- ⑤ 粗熱がとれたら、③に果物が浸るように寒天液を大さじ3杯程流し入れる。
- ⑥ 寒天液が漏れないように、空気を抜きながらラップを茶巾状に絞り、輪ゴムで止め、氷水の中に入れて冷やし固める。
- ⑦ 固まってきたら余分なラップを切り落とし、リボンタイなどをつけて飾りつける。



材料

【材料】(6個分)

果実のシラップ漬け(固形量) … 90g
 季節の果物 … 60g
 水 … 180ml
 粉寒天 … 2g
 砂糖 … 大さじ3
 レモン果汁 … 小さじ1/2

湯飲み等直径8cm程度の器 … 6個
 輪ゴム … 6個
 ラップフィルム(食品用)
 氷

●栄養価(1個あたり)

エネルギー … 34kcal
 たんぱく質 … 0.1g
 脂質 … 0.0g
 カルシウム … 3mg
 鉄 … 0.1mg
 亜鉛 … 0.0mg
 ビタミンA … 0μgRAE
 ビタミンB1 … 0mg
 ビタミンB2 … 0mg
 ビタミンC … 17mg
 食物繊維 … 1g
 食塩相当量 … 0g



7月号の

親子ではてな



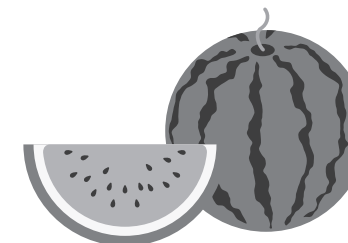
Q1 花火が打ち上がる時に「ヒュ～」という音が鳴りますが、あの音は何故鳴るのでしょうか?

- ア 花火玉から空気が抜ける音
- イ 花火玉につけられた笛の音
- ウ 花火玉が空気を切り裂く音



Q2 スイカを漢字で書くとどれでしょうか?

- ア 西瓜
- イ 南瓜
- ウ 水瓜



応募方法

応募者は、はがきで、7月末までに下記の宛先へお送りください。
 (1人1枚・当日消印有効)
 ※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8816
 岐阜市菅原町3-3
 岐阜県校長会館内
 岐阜県PTA事務局
 「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●7月号クイズの答え

- 郵便番号・住所 学校・学年・氏名 保護者名
- 『わが子のあゆみ』への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉

3月号クイズ答え

Q1 (ア) Q2 (ウ)

3月号のクイズ当選者

赤堀 晴輝(岐阜市) 勝 有萌果(不破郡)
 中村 心音(岐阜市) 土一 響暉(安八郡)
 木戸 綾乃(羽島市) 五十川英紀(揖斐郡)
 木村 陽平(各務原市) 五十川陽菜(揖斐郡)
 木村 恵美(各務原市) 鈴木 玲実(郡上市)
 加藤 優汰(各務原市) 玉腰和都子(郡上市)
 松原 壮右(羽島郡) 児玉 陽菜(加茂郡)

なぞなぞの答え

- ① 白色
- ② カメラ(カメ ラくだ さい)

阿木中学校は、中津川市の最南部に位置しています。周りを山々に囲まれ自然環境に恵まれた地域の学校です。生徒数は減少傾向であるため、若い世代に対する地域の方々の期待は非常に大きいです。また、学校行事や各種教育活動にも大変協力的であることから、小規模校のよさを最大限に生かして、学校も地域との協働による学校づくりを目指しています。

校区には中津川市指定文化財の阿木城跡をはじめ、長楽寺の銀杏、あぎ花ハス栽培田、風神社など、古くから大切にされてきた伝統文化があります。

阿木地区の伝統文化（芸能）の一つに「安岐太鼓」が挙げられます。安岐太鼓は風神社の神楽として行われる奉納太鼓です。この伝統芸能が一時衰退しかけていたため、当時（1969年）の風神社の宮司さんの援助で「安岐太鼓保存会」を発足したとかがついています。その4年後の1973年、阿木中学校でも「安岐太鼓クラブ」の活動を開始しました。部活動とは別に希望者を募っているクラブ活動であり、現在10名の生徒が所属しています。毎週水曜日の夜に保存会のみなさんに指導していただきながら練習をしています。

ここ数年はコロナ禍であったこともあり、演奏を披露する場が制限されてきました。しかし令和4年度は練習してきた演奏技術を、以下のような多くの場で披露し、たくさんの方々

- ・ 入学式 歓迎太鼓（4月7日）
- ・ おいでん祭（8月13日）
- ・ 阿木風神社祭典（8月31日）
- ・ 体育大会 開幕太鼓（9月30日）
- ・ いわむら城下おかげ祭り（10月23日）
- ・ 菓子まつり（10月29日）
- ・ 阿木八幡神社祭礼（11月3日）
- ・ 六斎市（11月12日）
- ・ 日本太鼓ジュニアコンクール（11月27日）
- ・ 3年生最終演奏会（1月11日）

また太鼓クラブのメンバーだけでなく、阿木中生徒全員に阿木地区の伝統芸能を経験させたいという願いから、新1年生を対象に毎年「安岐太鼓体験会」を実施しています。令和4年度は4月26日に保存会の方を指導者に招いて実施しました。

このように長年にわたり受け継がれてきた活動ですが、太鼓クラブへの参加を希望する生徒が年々減っていることが大きな悩みです。そこで魅力を伝えようと紹介DVDを作成して小学校等へ配付するなど、学校としても啓発活動を進めています。これからも伝統芸能を継承するとともに、太鼓クラブに加える生徒を増やし、安岐太鼓の素晴らしさをどんどん発信していきたいです。

未来へつなげる 伝統芸能「安岐太鼓」



▲【11月 日本太鼓ジュニアコンクール】郡上で開催された岐阜県予選会に参加し、最高の演奏を披露しました。



▲【1月 3年生最終演奏会】太鼓クラブ3年生最後の演奏。これまでの練習の成果を出し切りました。



▲【4月 新1年生安岐太鼓体験】新1年生が一人一つずつ太鼓を選び、講師の方から指導を受けながら演奏練習をしました。終了時には、聴く人を感動させる演奏ができるまで上達しました。生徒たちが伝統芸能に触れ、ふるさとを誇りに思う気持ちになれた、そんな時間になりました。



▶【4月 入学式】歓迎太鼓として、新入生を迫力の太鼓演奏で迎えました。



▶【11月 六斎市】中津川市のイベント「六斎市」で演奏し、多くの方々の気持ちを惹きつけました。



▲【11月 阿木八幡神社祭礼】阿木地区の八幡神社に招いていただき、奉納太鼓を披露しました。



▲【9月 体育大会】体育大会のオープニングで開幕太鼓を演奏し、全校生徒の気持ちを高めました。



○自ら漉いて作りあげる山中和紙の卒業証書

山中和紙は、河合町で 800 年受け継がれている和紙です。雪の上で楮こうぞをさらして、自然漂白するのが特徴です。3・4 年生の時に製作工程を学び、6 年生では自分の卒業証書を、自ら漉きあげます。

<地域の中で>

学校運営協議会と地域学校協働本部が一体となった活動

地域と学校が、共通の「願う児童像」をもち、子どもと関わりながら学校を核とした地域作りを行っています。子どもたちは、活動にしたい取組に、主体的に参加し取り組んでいます。

○河合っ子マルシェ

河合町の特産物を使った商品を考案し、自分たちで手作したもの販売するという取組です。山中和紙を使った雪だるま・ランタン・しおり、クロモジ茶、飛米牛（ひめぎゅう）コロッケ等の販売を行い、郷土河合町をアピールしました。子どもたちは、接客・レジ打ち等をし、商売をすることの難しさや楽しさを、直に経験することができました。



○他世代交流サロン

休日に、子どもたちと地域のお年寄りがお茶を飲んだり、お菓子を食べたり、トランプなどのゲームをして遊んだりして交流をしています。子どもたちにとっては、河合町の昔のことを聞いて勉強する機会となっており、地域の方にとっても子どもたちと楽しい一時を過ごす機会となりました。



○小農塾

希望児童が、放課後に、農薬や化学肥料を使わず自然にも人にも優しい農業を学ぼうと、土作り、野菜の栽培・火起こし・調理などを行ってきました。トマト、キュウリ、大根、大豆、トウモロコシなど、各自が希望する野菜を色々作りました。収穫後は販売したり、自分達で料理をしたりして美味しくいただきました。



河合小学校は、飛騨市西部に位置する全校児童 28名の小学校です。校区には、天生県立自然公園や河合スキー場があり、豊かな自然を活かした教育活動を行っています。地域の方が、学校教育にたいへん協力的で、率先して指導や支援をさせていただきます。SOUZOU学という本校独自のふるさと教育推進のために、地域の方が河合町の中で受け継がれている芸能や伝統を教えてください、さらに学校運営協議会と地域学校協働本部が一体となって子どもの学びや成長のための活動をおこなったりして、子どもたちは学校内外で学ぶことができます。



<学校の中で>

SOUZOU学(生活科や総合的な学習等の中でやっているふるさと学習)

ふるさとの「もの」や「こと」にふれ、「ひと」の願いや生き方を知り、夢や誇りをもつことをねらいとして、積極的にふるさと学習で学んだことを、地域へ向けて発信する活動を行っています。地歌舞伎・飛騨河合匠太鼓、民話劇については、毎年11月に開催される「河合っ子座公演」において、保護者及び地域の皆様へ披露しています。

○地歌舞伎「ことぶき そがの たいめん くどうやかた ば寿 曾我対面～工藤館の場～」(5・6年生)

着物を着て、歌舞伎独特の言い回しを言い、当日は隈取をして演じます。小学生とは思えないくらいの本格的な地歌舞伎を、飛騨市河合町歌舞伎保存会の方のご指導により学んでいます。



○飛騨河合匠太鼓たくみ(3・4年生)

大太鼓・中太鼓・小太鼓と板木を使って、森の中で、木を切っている雰囲気を感じ出します。太鼓や板木を打つ腕の振り上げを揃えるなど、演奏者の気持ちを一つにし、勇壮かつ軽快なリズムで躍動感ある演奏をします。

○民話劇「月をのんだむすめ」(1・2年生)

河合町天生で伝わる止利仏師伝説を、演劇にしました。天生で生まれた不思議な力を持つ「とり」は、やがて都へいき、止利仏師となり法隆寺釈迦三尊像を作り上げるというお話です。



剣道部



剣道部は、「不動心」をモットーに日々練習に取り組んでいます。作法・技術を磨くために、仲間同士で声を掛け合い、楽しく活動しています。

卓球部



卓球部は、県大会出場を目標に日々練習に励んでいます。礼儀を大切に、声を掛け合い、全員で楽しみながら部活をしています。

陸上部



陸上部は、先輩後輩関係なくと〜っても仲が良く、明るくて元気があります!また、自己新記録が出るように日々練習を頑張っています!

野球部



野球部では、「県大会優勝」を目指しています。そのために、練習では、声を出すことや全力でプレーすることを大切に、活動を行っています。

女子ソフトテニス部



女子ソフトテニス部では、挨拶と礼儀を大切にしながら活動しています。個々の課題が改善できるように励まし、助け合いながら日々の練習に励んでいます。

男子ソフトテニス部



男子ソフトテニス部では、35人の部員で日々練習に励んでいます。みんなソフトテニスが大好きです。多人数ですが、目指すものは同じソフトテニスを通して人として成長すること]です。全カプレーはもちろん、相手への敬意、感謝をもって個々の目標に向かっていきます。

水泳部



水泳部は、男女関係なく楽しく一生懸命に活動しています。一人でも多くの部員が県大会出場を果たせるように、水中練習や陸上練習を頑張っていきます。

ソフトボール部



ソフトボール部は、ソフトボールを通して技術的にも、そして人としても成長することを目標として活動しています。限られた時間の中でより良い活動になるように、先輩後輩関係なく意見を出し合いながら取り組んでいます。

柔道部



僕たち柔道部は、県大会優勝を目指して真剣に活動に取り組んでいます。時には楽しく、仲間と支え合いながら頑張っています。

女子バスケットボール部



女子バスケットボール部では、「応援されるチーム」を目指して日々の練習に励んでいます。練習では、学年関係なく協力して活動に取り組んでいます。

男子バスケットボール部



チームで目標を共有して、自分たちに必要な練習が何かを考え、自分たちの意志で練習に全力で取り組むことを大切にしています。

サッカー部



サッカー部では、仲間を大切に、サッカーを楽しみながら日々の練習に励んでいます。感謝の気持ちを忘れずに、県大会出場を目指して最善を尽くします。

文化部



文化部は、創造活動をする部活動です。絵画・工作・イラスト・手芸・作文など、好きなことや興味があることに精一杯取り組んでいます。

情報科学部



情報科学部は、仲間と問題を解決しながら、プログラミングでのゲーム制作や、動画制作などを行っています。また、タイピング練習を継続的に行い、個人のスキルアップも欠かさず行っています。

吹奏楽部



吹奏楽部は、「1. 返事は元気よく 1. あいさつは自分から」をモットーに活動しています。部員全員で一つのハーモニーをつくりあげ、穂中サウンドを届けられるよう日々練習に取り組んでいます。

バドミントン部



バドミントン部では、「楽しく」を意識し、日々活動しています。また、「礼儀」もすぐ意識していて、あいさつなど、当たり前のことは当たり前に行うことを大切にしています。

女子バレーボール部



女子バレー部は、元気よく、みんなでつなぐバレーを大切に活動しています。また、試合では最後まで粘り強く、明るい雰囲気をつくることを意識してがんばっています。

男子バレーボール部

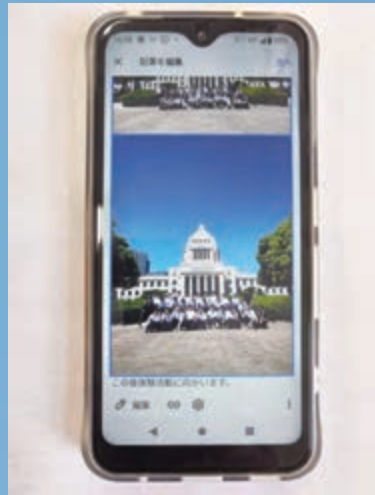


男子バレー部は、声を出すことを大切に一生懸命活動を行っています。練習では、一つ一つのプレーを丁寧にやることを意識して活動しています。

私たちのPTA

保護者向けブログ（Wix）の活用

日間賀島研修や修学旅行等での生徒の様子も写真と文章でタイムリーに情報発信しました。



リサイクル活動の様子

生徒・教員・保護者が協力し、スムーズに活動することができました。



1. はじめに

北和中学校がある揖斐川町といえば、今年日本で初めて猛暑日を記録したように全国的に「暑い町」として知られているのではないのでしょうか。また毎年秋には全国から多くのランナーが集まる大人気の「いびがわマラソン」が開催されます。校区にいびがわマラソンのコースがあるため、毎年生徒たちは給水所等でボランティアに参加しています。そして日本一の貯水量を誇る「徳山ダム」を有する町でもあります。自然や文化が豊かで、人と人との交流が温かい地域です。

今年の全校生徒数は142人です。各学年2学級の中学校ですが、年々少子化が進んで生徒数が減少しているため、将来的には単学級となる可能性もあります。今後、生徒数の減少にともなってPTA活動の見直しも必要になってくると思われませんが、全てのPTA会員が無理なく有意義な活動となるよう進めていきたいと考えています。

2. 令和5年度の組織と活動計画

- 【本部役員会】 会長1名・副会長2名・書記2名・会計2名
 - ・ 学校行事への協力
 - ・ 各委員会との連携・調整
- 【子育て委員会】 各学年2名
 - ・ 親子で聞く進路説明会
- ・ 卒業生へのコサージュづくり

・ 卒業生へのコサージュづくり

【生活委員会】 各学年2名

・ 小中合同リサイクル活動

【部活動委員会】 各部活動1名

・ 中体連応援

・ 親子部活動

【学年委員会】

・ 学級・学年懇談会

・ 学年行事への協力

3. 活動の様子

令和5年度は「生徒・教員・保護者が共に成長し、支え合うPTA」を目標に掲げ、活動をスタートしました。5月に行った小中合同リサイクル活動では、地域の協力を得ながら、生徒・教員・保護者が協力して資源回収を行いました。暑い日ではありましたが、おかげさまで短時間のうちに多くの資源が集まり、大きな事故や怪我もなく無事にリサイクル活動を終わることができました。今後も各委員会による活動が予定されていますが、生徒・教員・保護者が力を合わせて支え合い、共に成長することができるPTAを目指していきたいと思えます。学校行事やPTA活動の様子は保護者向けブログで随時お伝えしています。

がんばる子らの
汗と笑顔と眼差しと

岐阜市立柳津小学校



青空へ向かって



柳津特産「佐波イチゴ」



みんな大好き「緑道公園」



遊具はみんなの人気者



心と身体をそろえる運動会



シャボン玉いっぱい!

機関誌「わが子のあゆみ」
令和5年度 初夏号
第75巻1号 通巻476号

発行／令和5年7月1日 岐阜県PTA連合会
〒500-8816 岐阜市菅原町3-3 岐阜県校長会館内
電話／058(262)3257 FAX／058(262)3259
Eメール／info@gifu-pta.jp ホームページ／<https://gifu-pta.jp>
編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
印刷／サンメッセ株式会社